

令和4年度

事 業 報 告 書

川崎市総合教育センター

はじめに

令和5年5月、新型コロナウイルス感染症は感染症法上の第5類へ移行し、それに伴い、社会生活や学校における教育活動は、新型コロナ対策での制限が緩和されています。しかし、全ての生活をコロナ禍前に戻すということではなく、新たな生活の在り方、新たな生き方を皆で考え合い、well-being を追求していくことが after コロナの世界であると考えます。

この事業報告における令和4年度は、新しい学習指導要領がいよいよ高等学校でも年次進行で実施され、第2次川崎市教育振興計画である「かわさき教育プラン」は、第3期実施計画がスタートしました。

川崎市総合教育センターにおける令和4年度の各事業は、コロナ禍の影響を受けながらも、国や市の施策を踏まえ、after コロナの学校教育の在り方等も見据え、子どもたちに「生きる力」を確実に身に付けることや、一人ひとりの教育的ニーズに適切に対応すること、それらを推進する学校の教育力を強化することなどを支援するために、総務室を中心として、カリキュラムセンター、情報・視聴覚センター、特別支援教育センター、教育相談センターの5センターが、調査・研究、研修、相談等、多岐にわたる事業に取り組んでまいりました。

本報告書は、本センターの一年間の各事業の概要を次の8つの柱に沿ってまとめ、その内容を広く知つていただくとともに、次年度以降の業務改善に生かしていくために作られています。特に相談事業の報告からは、子どもたちを取り巻く様々な課題が明らかにされています。

- ① 組織・事務分掌：組織体系、各種会議、専門員、運営会議、予算等
- ② 調査研究：研究推進の基本的な考え方、実践研究、調査・基礎研究、施策研究、研究報告会等
- ③ 教育関係教職員研修：川崎市教員育成指標に沿ったライフステージに応じた必修・希望研修等
- ④ カリキュラムセンター事業：学習指導要領に基づく教育課程の編成や教育活動への指導・支援等
- ⑤ 情報・視聴覚センター事業：教育の情報化の推進、G I G Aスクール構想推進等
- ⑥ 特別支援教育センター事業：教育相談、就学相談、川崎市特別支援教育計画の実施等
- ⑦ 教育相談センター事業：教育相談、ゆうゆう広場、スクールカウンセラー派遣等
- ⑧ 広報及び刊行物：所報、要覧、研究紀要等

令和5年度は「かわさき教育プラン第3期実施計画」が2年目に入るとともに、かわさきG I G Aスクール構想も、最終段階であるステップ3に入ります。この段階では、児童生徒一人一人が自らの関心や課題等に応じて学んだり、問題を協力し合って解決したりするなどの学びに積極的に端末を活用します。また、小学校4年生から中学校3年生までの6学年を対象とした、新しい川崎市学習状況調査もスタートし、一人一人の学習状況をよりきめ細かく把握します。これらによって得られた教育データの有効な利活用は after コロナの教育における鍵を握るものになるでしょう。川崎市総合教育センターは、今後も、教育を取り巻く新たな課題の解決に資する研究と研修を実施し、これから社会を生きる子どもたちを育てる教職員の育成と学校支援等に努めてまいります。

最後になりましたが、当センターの運営・事業展開に当たり、ご指導とご支援を賜りました多くの皆様方に心より感謝申しあげます。

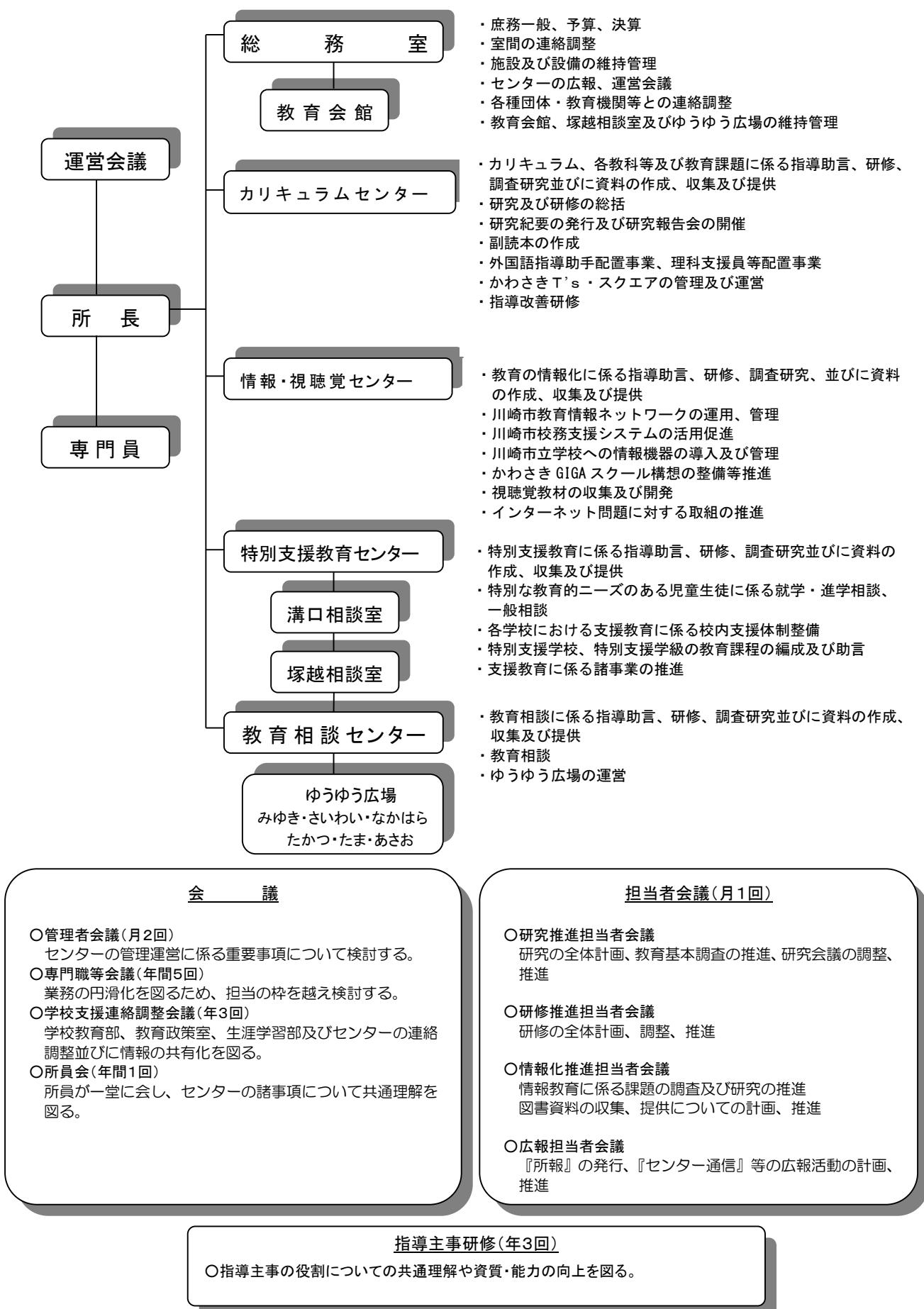
川崎市総合教育センター

所長 鈴木 克彦

目 次

組織・事務分掌	1
所員一覧	2
運営会議委員・専門員・教育相談センター専門員	3
予 算	4
研究体系図	5
1 調査研究	6
2 教育関係教職員研修	16
3 カリキュラムセンター事業	24
4 情報・視聴覚センター事業	28
5 特別支援教育センター事業	34
6 教育相談センター事業	38
7 広報及び刊行物等	44

組織・事務分掌



令和4年度 川崎市総合教育センター 所員一覧

令和4年4月1日現在

No	所属	職名	氏名	No	所属	職名	氏名	No	所属	職名	氏名
1		所長	鈴木 克彦	53		事務職員	本竹 史弥	103		塚越相談室電話相談員	★高橋 敏夫
2		担当部長	宮川 淳子	54		事務職員	金谷 学	104	教	塚越相談室電話相談員	★遠藤 規夫
3		室長	小嶋 健司	55		指導主事	岸本 孝司	105		塚越相談室電話相談員	★高内 靖夫
4		課長補佐	小島 光一郎	56		指導主事	福山 利創	106	育	塚越相談室電話相談員	★高藤 ふみ子
5	総務	係長	佐々木 一晃	57		指導主事	新田 瑞輝	107		家庭訪問相談員	★高橋 みゆ子
6		係長	大寺 泰	58		指導主事	金子 進	108		家庭訪問相談員	★内藤 韶佳
7		主任	伊藤 和美	59	情報	指導主事	杉田 昌崇	109		心理臨床相談員	★藤原 央理
8		主任	福原 佑子	60		指導主事	石橋 純一郎	110	相	心理臨床相談員	★卷出 依由
9	室	主任(再任用)	鈴木 木徹	61	・視聴覚	指導主事	今麻由子	111		心理臨床相談員	★高木 央花
10		事務職員	高野 祐也	62		指導主事	禿信成	112		心理臨床相談員	★小林 札央奈
11		施設管理嘱託員	明瀬 正一	63		指導主事	岡田 智弘	113	談	心理臨床相談員	★高橋 以央芽
12		学校マネジメント改善専門員	芹澤 成司	64	センターセ	指導主事	横田 不二夫	114		心理臨床相談員	★齊藤 友里加
13		室長	宮嶋 俊哲	65		情報視聴覚教育相談員	横田 幸二郎	115		心理臨床相談員	★白川 麻耶
14		担当課長	鵜木 朋和	66	セ	情報視聴覚教育相談員	平井 公憲	116		心理臨床相談員	★立田 あゆみ
15		担当課長	椎名 美由紀	67		インターネット問題相談員	井島 広明	117	セ	心理臨床相談員	★丸田 実佳
16		指導主事	野呂 公人	68		インターネット問題相談員	岡島 幸夫	118		心理臨床相談員	★安井 歩花
17	力	指導主事	鈴木 正博	69		インターネット問題相談員	橋邦一	119	ン	学校巡回カウンセラー	★高村 美采
18		指導主事	松本 崇	70		インターネット問題相談員	宮津 健一	120		学校巡回カウンセラー	★中井 正由
19	リ	指導主事	吉田 崇	71		長期研究員	時任 秀仁	121		学校巡回カウンセラー	★森 正果
20		指導主事	伊藤 由佳子	72		室長	伊藤 琢也	122		学校巡回カウンセラー	★高尾 実佳
21		指導主事	長澤 秀行	73	特	指導主事	盛光 之	123	タ	学校巡回カウンセラー	★高木 歩花
22	キ	指導主事	門口 知弘	74		指導主事	鹿島 理子	124		学校巡回カウンセラー	★三井 美子
23		指導主事	望月 隆	75	別	指導主事	清水 寿紹	125		学校巡回カウンセラー	★乃穂希子
24	ユ	指導主事	川城 晴奈	76		指導主事	林香織	126		学校巡回カウンセラー	★穂希子
25		指導主事	齋藤 宗則	77	支	指導主事	雨宮 薫	127	ー	学校巡回カウンセラー	★中嶋 実亮
26		指導主事	大山 崇洋	78		指導主事	★中澤 英之	128		学校巡回カウンセラー	★秋田 美亮
27	ラ	指導主事	岡城 祥二	79		指導主事	里恵子	129		学校巡回カウンセラー	★上村 幸友
28		指導主事	岡部 啓子	80	援	特別支援教育教育相談員	村越 淑美	130		学校巡回カウンセラー	★立木 慎友
29	ム	指導主事	下野 智英	81		特別支援教育教育相談員	龟田 亮一	131		学校巡回カウンセラー	★高橋 美子
30		指導主事	口裕子	82	教	就学相談専門員	★岸 幸枝	132		カウンセラー	★高橋 美子
31	セ	指導主事	山中 美奈子	83		就学相談専門員	中島 美夕	133		カウンセラー	★高橋 美子
32		指導主事	松浦 信明	84		就学相談専門員	川中 起江	134		ゆうゆう広場相談員	★高橋 美子
33		T'sスクエア相談員	小松 良輔	85	育	心理臨床相談員	吉井 寧子	135		ゆうゆう広場相談員	★高橋 美子
34	ン	初任者研修相談員	高木 充	86		心理臨床相談員	谷田 部祥子	136		ゆうゆう広場相談員	★高橋 美子
35		指導力向上特別研修指導員	秋本 和子	87	セ	心理臨床相談員	森ハルミ	137		ゆうゆう広場相談員	★高橋 美子
36	タ	指導力向上特別研修指導員	堀達也	88		心理臨床相談員	光本 恵	138		ゆうゆう広場相談員	★高橋 美子
37		理科支援員等コーディネータ	日原 みゆき	89		心理臨床相談員	武田 由衣	139		ゆうゆう広場相談員	★高橋 美子
38	ー	教師研修指導員	稻毛 伸幸	90	ン	心理臨床相談員	坂本 理恵	140		ゆうゆう広場相談員	★高橋 美子
39		長期研究員	西野 裕子	91		心理臨床相談員	吉野 真由子	141		ゆうゆう広場相談員	★高橋 美子
40		長期研究員	白田 利江	92	タ	心理臨床相談員	★福嶺 夏子	142		ゆうゆう広場相談員	★高橋 美子
41		長期研究員	中島 悠太郎	93		心理臨床相談員	奥田 愛	143		ゆうゆう広場相談員	★高橋 美子
42		長期研究員	荒井 貴文	94		心理臨床相談員	★佐藤 桂奈	144		ゆうゆう広場相談員	★高橋 美子
43		担当部長	荒木 孝之	95	ー	心理臨床相談員	★我妻 香奈	145		ゆうゆう広場相談員	★高橋 美子
44	情報	室長	板木 達也	96		心理臨床相談員	★花見 恵美子	146		ゆうゆう広場相談員	★高橋 美子
45		担当課長	関口 大紀	97		心理臨床相談員	★吉池 竜哉	147		ゆうゆう広場相談員	★高橋 美子
46		担当課長	添野 雅美	98	教育相談セ	室長	松田 典英	148		ゆうゆう広場相談員	★高橋 美子
47		係長	國分 墾彦	99		指導主事	★山田 礼子	149		ゆうゆう広場相談員	★高橋 美子
48		係長	佐藤 晃	100		指導主事	★小林 正史	150		ゆうゆう広場相談員	★高橋 美子
49		係長	茅根 真帆	101	ンタ	指導主事	★松崎 博晃	151		ゆうゆう広場相談員	★高橋 美子
50		主任	山森 大史	102		指導主事	荒谷 健一	152		ゆうゆう広場相談員	★高橋 美子
51		事務職員	永森 有貴					153		ゆうゆう広場相談員	★高橋 美子
52		事務職員	堀内 友里加					154		ゆうゆう広場相談員	★高橋 美子
		★=塚越相談室						155		ゆうゆう広場相談員	★高橋 美子
		<ゆうゆう広場>						156		ゆうゆう広場相談員	★高橋 美子
		S=さいわい						157		ゆうゆう広場相談員	★高橋 美子
		T=たま						158		長期研究員	★高橋 美子
		A=あさお						159		カウンセラー研究員	★高橋 美子

★=塚越相談室

<ゆうゆう広場> S=さいわい T=たま A=あさお M=みゆき N=なかはら K=たかつ

川崎市総合教育センター運営会議委員

氏名	現職	専門領域
館 勇紀	川崎市PTA連絡協議会会长	社会教育
小松 郁夫	京都大学特任教授	学校経営
有元 典文	横浜国立大学教授	学習環境
塙田 康子	神奈川CST協会会长	理科教育
赤堀 侃司	東京工業大学名誉教授	情報教育
池田 延行	国土館大学教授	保健体育
田原 ともえ	神奈川県警察本部 少年相談・保護センター川崎方面課長補佐	児童生徒指導
竹田 文夫	元玉川大学教職大学院教授	学級・学校経営
◎ 関戸 英紀	東海大学教授	特別支援教育
松岡 広記	川崎市立小学校長会会长 川崎市立大蔵小学校長	小学校教育
○ 大津 裕一	川崎市立中学校長会会长 川崎市立桝形中学校長	中学校教育
○ 山口 尚史	川崎市立高等学校長会会长 川崎市立高津高等学校長	高校教育
稻葉 武	川崎市立特別支援学校長会会长 川崎市立田島支援学校長	特別支援教育
石村 卓也	川崎市教職員組合執行委員長	学校教育

◎委員長 ○副委員長

専門員

氏名	現職	専門領域
工藤 文三	浦和大学教授	教育課程
森本 信也	横浜国立大学名誉教授	教育評価
芳川 玲子(～R4.9)	東海大学教授	教育相談
中島 香澄(R4.11～)	東海大学教授	教育相談
高木 展郎	横浜国立大学名誉教授	学習評価
永井 撤	首都大学東京教授	教育心理学
原 克彦	日白大学教授	情報モラル教育
霜田 浩信	群馬大学教授	特別支援教育
田中 信市	東京国際大学大学院教授	臨床心理学
野中 陽一	横浜国立大学教授	教育の情報化
小林 宏己	早稲田大学教授	カリキュラム開発
佐見 由紀子	東京学芸大学准教授	健康教育
両角 達男	横浜国立大学教授	算数・数学科教育
太田 洋	東京家政大学教授	英語教育
岡田 弘(R4.12～)	東京聖栄大学教授	学級経営

教育相談センター専門員

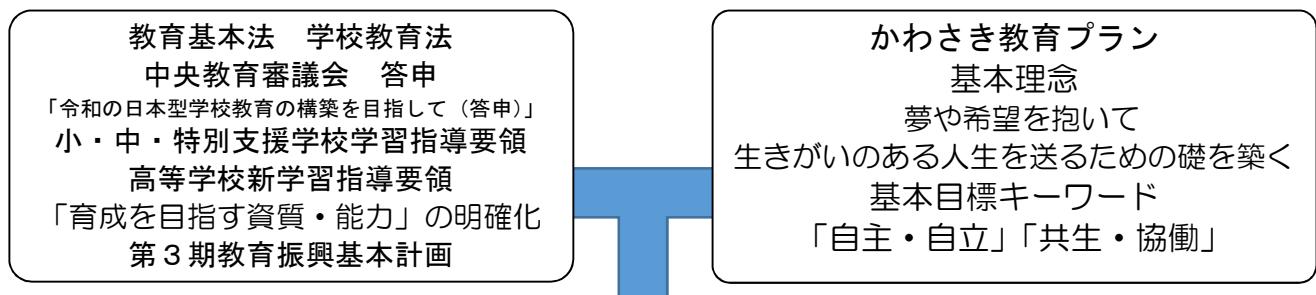
氏名	現職	専門領域
古莊 純一	青山学院大学教授	小児精神医学
鵜養 美昭	日本女子大学名誉教授	臨床心理学

予 算

単位 千円

科 目	年 度	令和 4 年度	令和 3 年度	令和 2 年度
総合教育センター費		1,705,360	1,976,294	1,273,214
教育調査研究費		21,429	21,897	22,905
教職員等研修費		15,899	19,395	16,481
教育相談費		101,889	96,016	79,307
適応教室運営費		75,521	75,044	75,643
教育情報ネットワーク事業費		539,164	569,712	485,730
G I G A スクール構想推進事業費		339,102	356,970	-
視聴覚教育費		2,437	1,686	1,700
平和教育推進費		619	619	659
外国語指導助手配置事業費		502,810	478,357	478,307
海外帰国子女等関係費			-	-
理科支援員等配置事業		17,084	16,294	17,228
カリキュラムセンター事業費		327	327	429
総合教育センター運営管理費		81,162	331,738	84,848
教育会館運営管理費		7,917	8,239	9,977
総合教育センター費外		2,409,513	2,303,156	1,492,129
学校教育活動支援事業費		523	385	336
児童生徒・指導相談業務費		143,242	103,382	98,540
教育課程・学習指導に関する事務		42,179	32,601	28,403
情報化教育推進事業費		1,129,535	2,166,766	1,364,828
G I G A スクール構想推進事業費		1,094,012	-	-
人権教育推進事業費		22	22	22

川崎市総合教育センター 令和4年度 研究体系図 概略版



川崎市総合教育センターの研究

令和4年度 研究主題

自己実現を図り、持続可能な社会を創る資質・能力の育成

実践研究

- 各教科等に係る指導内容、指導方法、教材・資料等の充実・改善を目的とした研究
- 児童生徒の発達の支援に係る研究
 - ◎長期研究員と研究員による研究（6）
 - 国語科 ○体育・保健体育科 ○学力分析
 - 高校教育 ○情報モラル ○学校教育相談
 - ◎指導主事と研究員による研究（6）
 - 理科 ○音楽科 ○技術・家庭科 ○外国語科
 - 特別活動 ○健康教育
 - ◎カウンセラー研究員による研究
- 市立学校との共同研究

共同研究

- 各研究所等との共同研究
- ◎神奈川県教育研究所連盟
 - 研究大会での研究報告
 - 研究協議会1部会開催
- ◎関東地区教育研究所連盟
- ◎全国教育研究所連盟
- ◎都道府県指定都市教育センター所長協議会

施策研究

- 教育施策等に係る研究
- ◎新川崎市学習状況調査の分析及び活用とスタディ・ログに係る研究
- ◎かわさき GIGAスクール構想に係る研究
- ◎習熟の程度に応じたきめ細やかな指導に係る研究
- ◎全国学力・学習状況調査の分析及び活用に係る研究

調査・基礎研究

- 教育活動及び児童生徒の実態に係る調査研究
- ◎各センター指導主事研究
 - カリキュラムセンター
 - 情報・視聴覚センター
 - 教育相談センター
 - 特別支援教育センター

1 総合教育センターにおける研究推進の基本的な考え方

総合教育センターでは設立以来、多様化する教育課題等を踏まえ、川崎の教育の創造と発展に資することを目的とした調査研究を行っている。

現在の総合教育センターは、「研究・研修」の業務と、各教科等や教育課題等に係る各学校に対する指導業務を担っている。指導主事が学校等の要請に応じて学校を訪問し、授業研究や校内研修等において指導や支援に携わりながら、各学校の子どもたちの実態や授業における指導の状況等を直接把握している。

そこで、研究においては、本市の子どもたちや学校の実態等を踏まえたうえでの各教科等に係る指導方法の改善や教員の授業力の向上、子どもたちの発達の支援に係る研究等を実践研究の中心に据えて取り組んでいる（別紙「研究体系図」参照）。

◇実践研究

- 各教科等に係る指導内容、指導方法、教材・資料等の充実・改善を目的とした研究
- 児童生徒の発達の支援に係る研究
 - 長期研究員と研究員による研究会議
 - 国語科、体育・保健体育科、学力分析、高校教育、情報モラル、学校教育相談
 - 指導主事と研究員による研究会議
 - 理科、音楽科、技術・家庭科、外国語科、特別活動、健康教育
 - カウンセラー研究員による研究
- 市立学校との教育の情報化推進を目的とした研究

◇調査・基礎研究

- 教育活動及び児童生徒の実態に係る調査研究
 - 指導主事研究 各センターの課題に応じた研究

◇施策研究

- 教育施策等に係る研究
 - かわさき GIGA スクール構想に係る研究
 - 習熟の程度に応じたきめ細やかな指導に係る研究
 - 全国学力・学習状況調査の分析及び活用に係る研究

◇共同研究

- 各研究所等との共同研究
 - 神奈川県教育研究所連盟
 - 関東地区教育研究所連盟
 - 全国教育研究所連盟
 - 都道府県指定都市教育センター所長協議会

◇実践研究

長期研究員・研究員による研究会議

文学的な文章を読む学習における自らの考えをつくり出す子の育成
—「主体的に読むサイクル」を手立てとして—

(国語科研究会議)

本研究では、文学的な文章を読む学習において、単元で目指す資質・能力を身に付けながら主体的に読み、自らの考えをつくり出す子の育成を目指し、「主体的に読むサイクル」による学習過程を研究した。これまでに身に付けた読み方を活用して一人で読むサイクルを単元の中に組み込むことで、一人では解決できない、みんなで解決したい問い合わせが生まれ、目的や必要感をもって読もうとする意欲が高まることが明らかとなった。また、「内容モード」から「言葉モード」へと読み方が変容するような学習課題や学習活動を設定することで、新たな読み方を獲得しながら、言葉による見方・考え方を働かせて読み、自らの考えを確かにしていくことが分かった。

<スタッフ> 西野 裕子（長期研究員） 普野 明美（研究員） 関 香織（研究員）
松崎 初奈子（研究員）

自己と仲間のよさや課題を見付け伝え合う体育学習
— 考えを共有する活動を通して —

(体育・保健体育科研究会議)

本研究では、児童生徒が、自己と仲間のよさや課題を見付け伝え合う姿を目指して研究を進めた。検証授業では、単元の中に「考えを共有する活動」を意図的に設定し、その効果を検証した。

研究を通して、動きや考えの可視化と、動きを見る視点の明確化が、児童生徒がよさや課題を見付けることに有効であること分かった。また、教師が児童生徒の思考を促し、考えを引き出す言葉や、安心感を生み出す言葉、意欲につながる言葉を意図的にかけることによって、考えを共有する活動が充実し、児童生徒が自己と仲間のよさや課題を見付け伝える姿を引き出すことができた。

<スタッフ> 白田 利江（長期研究員） 中島 真知子（研究員） 中村 誠（研究員）
藤田 貴子（研究員）

新川崎市学習状況調査の結果活用に関する研究
— 学校が育成を目指す資質・能力を育むための授業改善を通して —

(学力分析研究会議)

本研究では、令和5年度から始まる「新川崎市学習状況調査」の実施に向け、本年度は市内モデル校と協力し、新調査の結果を活用した授業改善に取り組んだ。結果活用においては、新調査を実施していない学年や教科担当の教員も含めた学校全体で取り組むための手立てとして、「教科調査とともに学習意識調査の結果を取り入れること」、「分析の視点として学力層分析に着目すること」、「校内研修の企画・実施」の3つを講じた。その結果、教員が調査結果を基に協議を行い、目の前の児童生徒の実態に応じた授業改善につなげようとする姿が見られた。

<スタッフ> 中島 悠太郎（長期研究員） 白石 篤士（研究員） 中川 友裕（研究員）
早川 芳哉（研究員） 東郷 篤（研究員）

高等学校生徒が試行錯誤して学習する姿を目指して
—数学科を中心に問題を工夫することを手立てに—

(高校教育研究会議)

本研究では、学習過程の充実を実現するために「生徒が試行錯誤して学習する姿」を目指して、問題を工夫することを手立てに研究に取り組んだ。工夫とは、あらかじめ誤答を提示して正しく直す問題にすることや、問題の語尾を変えて多様な考えを生みだすようにすることなどである。研究に取り組んだ結果、授業者が生徒に「複数の疑問を抱かせる」、「問題に対して考えることを選ぶ機会がある」ということについて考えて工夫するのが重要であることが見えてきた。本研究で実践した工夫をすることで、着目生徒が試行錯誤して学習することにつながった。

<スタッフ> 荒井 貴文（長期研究員） 祖父江 仁成（研究員） 福島 知樹（研究員）
柴山 真穂（研究員） 佐藤 康徳（研究員）

1人1台端末環境における情報モラルの育成
—各教科等で端末を活用する場面を生かした授業を通して—

(情報モラル研究会議)

本研究では、各教科等の学習活動の中で情報モラルを育成する手立てを考えた。1つ目として、6つの場面「①検索する②撮影する（写真・動画）③写真・動画を活用する④共同編集する⑤まとめる⑥発信・受信する」を設定する。2つ目として、児童生徒に身に付けさせたい情報モラルを明確にするために「日常的なモラルリスト」と「情報モラルチェックリスト」を作成し、単元計画の中に身に付けさせたい情報モラルを位置付け、教師が意識して育成する項目とした。検証授業の結果から、各教科等の学習活動の中で、1人1台端末環境を生かすことにより情報モラルが育成されることが分かった。

<スタッフ> 時任 秀仁（長期研究員） 中尾 有希（研究員） 北林 新菜（研究員）
古賀 勇樹（研究員） 川口 優（研究員） 目黒 健太（研究員）

川崎市中学生における援助希求的態度の育成に向けて
—「SOSの出し方に関する教育」プログラム試案の取組を通して—

(学校教育相談研究会議)

本研究では、援助能力や情報・知識を高め、相談しやすい関係を築くなど、援助希求の構造全体に働きかけることで援助が成立しやすくなり、援助希求的態度が育成されていくと考えた。そこで、SOS プログラム（課題予防的生徒指導にあたる3時間の授業）を作成し、効果を検証した。検証の結果、SOS プログラムは、相談の意思が低かった生徒について、相談の意思を促進し、行動変容につながることが示唆された。他者と信頼関係を結べていることや居場所があること、良好な人間関係を作り出すスキルがあるクラスは、援助を求めやすいことが分かった。

<スタッフ> 岸根 薫理（長期研究員） 遠藤 麻美（研究員） 佐々木 桃子（研究員）
藤原 光司（研究員）

◇カウンセラー研究員による研究

教師の「言葉選び」を重視した教育相談活動の実践
一生徒アンケートを踏まえた教師意識の向上をめざして—

本研究では、昨年度末の学校評価アンケートの結果を足がかりに、生徒アンケートから浮かび上がった課題を教育相談活動という視点を通して解決しようと実践研究を重ねた。生徒アンケートからは、教師との関わり方について、教師が発する言葉による印象が大きいことが挙げられていた。そこで教師の「言葉選び」に関する研修等を行い、生徒に対する働きかけ、特に教育相談期間に行う教育相談の中での言葉がけに対する教師意識の向上をめざした。年3回の教育相談期間後に生徒・教師の両方にアンケートを取り、変容を見取った。生徒からのコメントや研修後の教師からのコメントには自己認識の変容が見られ、教師側の意識が向上していることが見て取れた。

<スタッフ> 大橋 聰 (カウンセラー研究員)

◇指導主事・研究員による研究会議

観察、実験を通した学習の充実を図るための理科安全指導
—「理科実験安全指導の手引き（改訂版）」の作成—

(理科指導主事と
研究員による研究会議)

本研究会議では、子どもが安全に、安心して観察、実験を行うために、教員が指導に困難さを感じる観察、実験と、その困難さを軽減する手立てに関する調査研究を行った。本市の小学校教員を対象としたアンケート調査からは、理科の授業（指導）に不安を感じている教員が73.1%で、事故や器具の正しい使い方等について不安を抱えていることが明らかになった。また、植物の栽培や生物の飼育についての困難さを感じていることも明らかになった。そこで、学習指導要領改訂に伴う新内容、移行内容等への対応や、観察、実験におけるGIGA端末活用の安全上の留意点などについて調査や研究を行った。

教員が自信をもって観察、実験の指導ができるよう「改訂版 理科の観察、実験における安全指導の手引き～先生！実験楽しいね！！～」を作成に取り組むこと、観察、実験安全指導に関する校内研修の充実について発信することができた。

<スタッフ> 吉田 崇（指導主事） 清藤 裕毅（研究員） 末田 まり子（研究員）
佐藤 智子（研究員） 木村 由美子（研究員）

音楽に対する感性を育む授業デザイン
一個の感性を育み、新たな価値が生まれることを通して—

(音楽科指導主事と
研究員による研究会議)

本研究会議では、資質・能力の育成に向けて、学習内容や活動を「児童生徒の立場」から見直し、根底にある「感性」を豊かに育む授業デザインに着目をして研究を進めた。「音楽的な感性」を働かせるための手立てとして、「曲との出会いの場」「協働的な学びの場」「十分な思考の場」の3点を充実させ、題材を通して児童生徒の様子を検証した。いずれの題材でも、一人一人が音楽に対する自分の考えをもち、他者と協働しながら音楽と向き合う姿が見取れた。さらに、授業でその音楽に出会ったことで、学習したことを根拠としてその音楽が自分にとってどのようなものなのかを考えることができた姿も見取ることができ、これらの手立ての成果を明らかにすることができた。

<スタッフ> 伊藤 由佳子（指導主事） 篠塚 真理子（研究員） 森 円佳（研究員）
梶 智美（研究員） 石塚 倫世（研究員）

「主体的・対話的で深い学び」を実現する技術・家庭科の授業づくり
—GIGA 端末を活用した学習指導を通して—

(技術・家庭科指導主事と
研究員による研究会議)

本研究会議では、「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善に取り組んだ。研究員所属校において実施したアンケートから各校の課題を見いだし、その課題を解決するために、GIGA 端末をどのように活用すればよいか検証した。題材を通して授業のねらいに合わせて、他者と対話したり協働したりする場面や見方・考え方を働くさせる場面を設定し、効果的に GIGA 端末を活用することで、考えを深めたり、広げたりすることにつながった。今回の研究で実践した内容を市内の技術・家庭科教員に周知するために「GIGA ハンドブック技術・家庭編」を作成した。

<スタッフ> 望月 隆（指導主事）
中島 智洋（研究員）

川城 晴奈（指導主事）
野島 有記（研究員）

田中 伸英（研究員）
大野 あすか（研究員）

言語活動のさらなる充実を目指した授業づくりの工夫
一児童生徒が主体的に学習に取り組むことができる指導過程の
工夫を通して—

(外国語科指導主事と
研究員による研究会議)

本研究会議では、言語活動をさらに充実させるための手立てについて研究した。児童生徒がコミュニケーションを図る必然性を感じることができる言語活動の目的・場面・状況の設定の工夫、ゴールに向かう言語活動の繰り返し、中間指導、振り返り活動と振り返り活動を生かすことができる機会の設定など、指導過程の工夫を通して、目標の達成に向けての主体的に学ぶ児童生徒の姿を見ることができた。また昨年度研究会議で作成された CAN-DO リストスタンダードの各項目に目的・場面・状況設定のある具体的な言語活動例を追加した今年度版の CAN-DO リストスタンダードを作成した。

<スタッフ> 大窪 洋次郎（指導主事） 吉田 聖（研究員） 阿部 信也（研究員）
天田 梨那（研究員） 知念 清志スチュワート（研究員）

問題発見し、目的意識をもち、主体的に学び合う児童生徒の育成
—事前の活動から実践までの一連の学習過程を通して—

(特別活動指導主事と
研究員による研究会議)

本研究会議では、学級活動（1）の学級会に焦点化し、次の3つの視点から研究を進めた。①問題発見：学校生活の現状を踏まえ、自ら問題を発見できたか。②目的意識：何のために話し合ったり実践したりするのか共通理解できていたか。③主体性：児童生徒が目標達成に向けて活動を進めていくことができたか。特に、学級の現状を自分たちで振り返り、課題を見いだすことは、自分たちをよりよくしていこうとする心情の育成に繋がった、また、学級会での話し合いと実践により学級の人間関係がよくなり、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善にも寄与した。

<スタッフ> 下村 智英（指導主事） 門別 整（研究員） 漆島 太一（研究員）
堀米 幸男（研究員） 仲宗根 唯（研究員）

性の多様性について理解を深める健康教育
—自他の個性を尊重し、互いに認め合える人間関係づくり—

(健康教育指導主事と
研究員による研究会議)

本研究会議では、研究員所属校の健康課題から性の多様性についての対応に視点をあて、学級担任と養護教諭が行う特別活動（学級活動）の授業について研究した。児童生徒の実態を把握するために授業前にアンケートを実施した。発達段階に応じた教材を作成し、当事者の動画を活用した。動画を視聴する際の視点を示し話し合い活動を行った。性の多様性について、性のあり方は一人一人違うことを理解し、話し合い活動では積極的に意見を出し合い、互いの違いを認め互いを大切にするために自分ができることを考え実践しようとする姿が見られた。

<スタッフ> 野口 裕子（指導主事） 今野 奈央子（研究員） 野崎 萌（研究員）
渡辺 和加奈（研究員） 福寿 典子（研究員）

◇調査・基礎研究（指導主事研究）

支援教育コーディネーターに求められる教育相談の視点を整理する
—支援教育コーディネーターの教育相談力を支える研修に向けて—

(教育相談センター
指導主事研究)

支援教育コーディネーターは、学校の支援教育を推進する中心的存在である。本研究会議では、教育相談センターが担当している研修実施と支援教育コーディネーターにかかわる業務の中で見えた支援教育コーディネーターに求められていることを「教育相談の視点」でまとめ、一覧表に整理した。大きい視点としては「児童生徒理解」と「支援のマネジメント」の2つを挙げる。さらにその「児童生徒理解」を深め、効果的に「支援のマネジメント」を行うための視点を「心理・医療」「発達」「福祉・社会」の3つに分類した。

<スタッフ> 山田 礼子 松崎 博晃 小林 正史 荒谷 健一

2 研究報告

(1) 川崎市総合教育センター 研究報告会【別紙1】

この研究報告会は、当センターの実践研究及び調査・基礎研究を報告し、研究協議、指導講評を通して研究の成果を市内の学校、社会教育機関に還元するものである。令和4年度は、オンライン形式と集合形式のハイブリッド型で開催した。長期研究員、指導主事と研究員による研究の12分科会と、横浜国立大学教職大学院派遣教諭による研究の1分科会で研究報告を行い、報告会参加者は603名と、各研究会議で熱気あふれる研究報告会となった。研究報告会後には、各研究会議の報告内容を動画にて配信し（令和5年2月10日～3月24日）、先生方がGIGA端末で「都合の良いタイミングで、何度でも」報告内容を視聴することができ、複数の研究報告も視聴可能とした。

(2) その他の研究発表

- ・「令和4年度神奈川県教育研究所連盟 第69回教育研究発表大会」における発表【別紙2】

3 その他の研究事業

◇研究冊子等の作成

川崎市総合教育センター研究紀要 第36号（令和4年度版）

令和4年度に調査研究した内容の掲載

【別紙1】 川崎市総合教育センター研究報告会

研究報告会報告内容

【長期研究員(◎)と研究員(○)による研究】

研究会議名 報告分科会形式	研究主題	発表者	講 師
国語科 研究会議 オンライン形式 (Google Meet)	文学的な文章を読む学習における自らの考えをつくり出す子の育成 —「主体的に読むサイクル」を手立てとして—	◎西野 裕子 ○菅野 明美 ○関 香織 ○松崎 初奈子	元川崎市立小学校国語教育研究会長 元川崎市立小学校長 片桐 文雄 先生
体育・保健体育 科研究会議 集合形式	自己と仲間のよさや課題を見付け 伝え合う体育学習 —考え方を共有する活動を通して—	◎白田 利江 ○中村 誠 ○中島 真知子 ○藤田 貴子	帝京大学 教育学部教育文化学科 教授 高田 彰成 先生
学力分析 研究会議 オンライン形式 (Google Meet)	新川崎市学習状況調査の結果活用 に関する研究 —学校が育成を目指す資質・能力 を育むための授業改善を通して—	◎中島 悠太郎 ○白石 篤士 ○中川 友裕 ○早川 劳哉 ○東郷 篤	日本女子大学 人間社会学部教育学科 教授 瀬尾 美紀子 先生
高校教育 研究会議 オンライン形式 (Google Meet)	高等学校生徒が試行錯誤して学習する姿を目指して —数学科を中心に問題を工夫することを手立てに—	◎荒井 貴文 ○祖父江 仁成 ○福島 知樹 ○柴山 真穂 ○佐藤 康徳	学習院大学大学院 人文科学研究科教育文化学科 教授 小原 豊 先生
情報モラル 研究会議 集合形式	1人1台端末環境における情報モラルの育成 —各教科等で端末を活用する場面を 生かした授業を通して—	◎时任 秀仁 ○中尾 有希 ○北林 新菜 ○目黒 健太 ○古賀 勇樹 ○川口 優	目白大学 メディア学部メディア学科 教授 川崎市総合教育センター専門員 原 克彦 先生
学校教育相談 研究会議 オンライン形式 (Zoom)	川崎市中学生における援助希求的 態度の育成に向けて —「SOSの出し方に関する教育」プ ログラム試案の取組を通して—	◎岸根 薫理 ○遠藤 麻美 ○佐々木 桃子 ○藤原 光司	東海大学 文化社会学部 心理・社会学科 教授 川崎市教育委員 芳川 玲子 先生

【指導主事(◎)と研究員(○)による研究】

理科研究会議 オンライン形式 (Google Meet)	教員が自信をもって安全に観察、実験の指導するための「改訂版 理科実験安全指導の手引き～先生！実験楽しいね！！～」の作成に関する研究 —子どもが安全に、安心して問題解決・探究することを楽しむ観察、実験の指導の充実を目指して—	◎吉田 崇 ○清藤 裕毅 ○末田 まり子 ○佐藤 智子 ○木村 由美子
音楽科研究会議 集合形式	音楽に対する感性を育む授業デザイン —個の感性を育み、新たな価値が生まれることを通じて—	◎伊藤 由佳子 ○篠塚 真理子 ○森 円佳 ○梶 智美 ○石塚 倫世

技術・家庭科 研究会議 オンライン形式 (Google Meet)	「主体的・対話的で深い学び」を実現する 技術・家庭科の授業づくり —GIGA端末を活用した学習指導を通して—	◎望月 隆 ◎川城 晴奈 ○田中 伸英 ○中島 智洋 ○大野 あすか ○野島 有記
外国語科研究会議 オンライン形式 (Google Meet)	言語活動のさらなる充実を目指した授業づくりの 工夫 —児童生徒が主体的に学習に取り組むことができる 指導過程の工夫を通して—	◎大窪 洋次郎 ○天田 梨那 ○知念 清志 ^{スコット} ○阿部 信也 ○吉田 聖
特別活動研究会議 オンライン形式 (Google Meet)	問題発見し、目的意識をもち、主体的に学び合う児 童生徒の育成 —事前の活動から実践までの一連の学習過程を通し て—	◎下村 智英 ○門別 整 ○漆島 太一 ○仲宗根 唯 ○堀米 幸男
健康教育研究会議 オンライン形式 (Google Meet)	性の多様性について理解を深める健康教育 —自他の個性を尊重し、互いに認め合える人間関係 づくり—	◎野口 裕子 ○今野 奈央子 ○野崎 萌 ○渡辺 和加奈 ○福寿 典子

【横浜国大 教職大学院派遣教諭による報告】

研究名	研究主題	発表者	講 師
横浜国立大学 教職大学院派 遣教諭による 研究報告 オンライン形式 (Google Meet)	シェアド・リーダーシップの 発揮を目指したOJT開発 ～360° フィードバックによ る相互評価を通して～	令和4年度横浜国立大学教 職大学院 派遣教諭 日吉小学校 斎藤 照哉	横浜国立大学大学院教育学 研究科高度教職実践専攻 (教職大学院) 教授 横浜国立大学教育学部附属 横浜小学校長 小松 典子 先生

【別紙2】 令和4年度 神奈川県教育研究所連盟 第69回 教育研究発表大会

- 1 主催 神奈川県教育研究所連盟
2 担当機関 神奈川県立総合教育センター 平塚市教育研究所 小田原市教育研究所
秦野市教育研究所 伊勢原市教育センター 南足柄市教育研究所
二宮町教育研究所 大磯町横溝千鶴子記念教育研究所
3 大会テーマ 「未来を拓く・創る・生きる」力を育む
4 期日 令和4年11月1日(火)
5 参加者 神奈川県教育研究所連盟加盟機関(25機関、前大会370名、分科会454名)
6 会場 県立総合教育センター(善行庁舎)
7 日程 (1)受付 9:20~9:40
(2)全体会 開会行事 9:40~10:00
記念講演 10:00~11:30
演題「地域の農業を通して子ども達に伝えたいこと」
講師 石田牧場グループCEO 神奈川県農協青壯年部協議会委員長 石田 陽一 氏
(3)分科会(13分科会 研究発表39本)
研究発表① 13:35~14:25
研究発表② 14:35~15:25
研究発表③ 15:35~16:25

○記念講演概要

- ・「心身ともに健康な牛と人をはぐくみ地域社会の繁栄に寄与する」が経営理念
衛生と安心安全にこだわることを続けてきた。整理整頓、清潔な職場環境、記録付けなど、凡事徹底することや自分の心を整えることを大切にしてきた。
- ・子どもたちに伝えたい3つの「しょく(触・食・職)」
触ることを通して生きていることを感じてほしい。鳥、豚、野菜、米などはみんなの体や筋肉になるために一生を捧げていることを食べることを通して感じてほしい。食卓にでたものは残さず食べてほしい。酪農家を成り立たせている職には様々なものがあることを高学年や中学生には知ってほしい。酪農家は一人ではできない。仕事は多くの人の支えがあって成り立つ。感謝の心を忘れないことを伝えていきたい。

8 分科会 川崎市発表者

NO	発表テーマ	発表者
第1	思考の視点を取り入れた授業と評価の研究 ～自らの考えを表出し、根拠を示して説明できる生徒の育成～	角田 佳衣
第2	新しい時代を生き抜く資質・能力を育む理科授業 ～自律的に問題解決・探究する子どもの育成を目指して～	葛岡 大
第3	自己理解を深め、問題解決に向かおうとする子を育む実践研究 ～本市の教育活動を生かした不登校未然防止の取組～	米山 由紀
第4	児童生徒が音楽科の「知識」を習得・活用するための指導の在り方 ～音楽や他者との関わりから、思考・判断し、表現する活動を通して～	秋山 高宏
第5	重度知的障害のある児童生徒への教科指導における授業づくりのプロセス ～言葉への関心を高める国語科の実践を通して～	雨宮 薫
第11	児童が主体的に活用し、よりよい社会の在り方を考えることができる 副読本「かわさき」の作成・活用に関する研究 ～問題解決的な学習に、より一層対応した副読本「かわさき」をめざして～	寺尾 春菜
第12	情報活用チェックリストを用いた学校全体での情報活用能力の育成の取組 ～GIGAスクール構想の実現に向けた抽出校の事例研究～	福田 有宇

2 教育関係教職員研修

(1) 必修研修

集合型研修=★ 双方向型オンライン研修=◆ 单方向型オンライン研修=◇ 单方向型研修=●
中止だが資料の提供=△ 中止=▲

番号	コース名	担当	内容	対象	実施日	参加延人數
801	新規採用教員研修	伊藤	<p>■ 川崎市の教員の基礎的及び専門的知識・技能の向上を図るために、ライフステージに応じた研修の一環として、教職全般に関する基礎研修及び専門研修を実施し、実践的指導力と使命感を養うとともに幅広い知見を得る。</p> <p>(1)研修オリエンテーション・メンタルヘルス研修★ (2)情報教育、情報機器の活用法、情報モラル・指導主事★(総合教育センター) (3)児童・生徒指導、学級経営について・芹澤 成司★(総合教育センター元所長) (4)安全指導について 救急法の講義演習、心肺蘇生法・日本赤十字社★ (5)学習指導についての講義演習・指導主事(総合教育センター)★ (6)学習指導 理科指導における講義演習[小教科別指導]中・高・特]・指導主事(総合教育センター)★ (7)(8) 人権 米倉竜司(教育政策室) キャリア 安斎陽子(教育政策室)★ (9)特別支援教育の現状と理解について・指導主事(総合教育センター)★ (10)教育相談について(総合教育センター)★ (11)児童生徒指導、学級経営について・指導主事(各区教育担当)★ (12)(13)授業力向上 班別研修 指導主事(総合教育センター)★ (14)班別授業 ★ (15)講話 研修報告 小田嶋 满(教育長)★ (16)～(19)[小・中・特]授業研究会参加、各教科、道徳、特別活動、外国語活動、総合的な学習の時間のうち3回の授業参観と研究協議[中・高]示範授業参観 授業研究会参加、各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間のうち1回の授業参観と研究協議・指導主事(総合教育センター)★</p>	新規採用教員	勤務校外研修 年間19回 4/4～1/26	5,220
802	新規採用養護教諭研修	野口	<p>■ 養護教諭の基礎的及び専門的知識・技能の向上を図るために、現職研修の一環として、学校保健全般に関する基礎研修及び専門研修を実施し、実践的指導力と使命感を養うとともに幅広い知見を得る。</p> <p>(1)養護教諭に必要な資質と能力、教育に果たす養護教員の役割、学習指導要領と保健の学習、保健指導・岡部啓子(総合教育センター指導主事)★ (2)中学校における保健室経営と健康教育の実際・工藤晶子(柿生中学校)★ (3)健康教育指導案検討・野口裕子(総合教育センター指導主事)★ (4)小学校における保健室経営と健康教育の実際・林由記(川崎小学校)★ (5)授業研究・野口裕子(総合教育センター指導主事)★ (6)保健室経営案と学校保健計画の立案・・養護教諭の活動の評価・野口裕子(総合教育センター指導主事)★</p>	新規養護教諭	7/14 9/2 9/15 9/29 11/24 12/15	57
803	新規採用学校栄養職員研修	川城	<p>■ 学校栄養職員の基礎的及び専門的知識・技能の向上を図るために、ライフステージに応じた研修の一環として、学校給食全般に関する基礎研修及び専門研修を実施し、実践的指導力と使命感を養うとともに幅広い知見を得る。</p> <p>(1)学校給食の概要と服務・給食管理システムについて・杉山綾子(健康給食推進室)★ (2)給食試食会の進め方・杉山綾子(健康給食推進室)★ (3)食に関する指導Ⅰ(給食時間における指導等)・杉山綾子(健康給食推進室)・下村智英(総合教育センター指導主事)・川城晴奈(総合教育センターカリキュラムセンター指導主事)★ (4)食に関する指導Ⅱ(指導の実践にむけての工夫)・杉山綾子(健康給食推進室)★ (5)食に関する指導Ⅲ(指導の実践にむけての工夫)・杉山綾子(健康給食推進室)★ (6)食に関する指導IV(授業の実践・指導講評)・杉山綾子(健康給食推進室)・下村智英(総合教育センター指導主事)★ ※801新規採用教員研修の14回[1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 12, 13, 14, 16]も受講</p>	新規学校栄養職員	4/7 6/29 8/19 8/26 11/15 1/24	18
804	2年目教員研修	大窪	<p>■授業づくり、学級経営、児童生徒指導の3つの視点で普段の教育活動を振り返り、自己の課題を見付け、課題解決に向けて具体的な手立てを考え、継続的に実践することができる力を身に付ける。</p> <p>(1)・ガイダンス・事前資料のポイントの説明・道徳、特別活動、総合的な学習の時間、外国語活動・指導主事(総合教育センター)・班別協議(1年目、2年目前半を振り返った成果と課題、授業研究会へ向けて、班テーマの設定と授業づくり)★ (2)班別授業研究一班別研修(指導案を基に協議)★</p>	2年目教員(全校種)	8/21 1/31	419
805	3年目教員研修	望月	<p>■ 教科の目標と内容の理解を深めるとともに、自己の課題を一層明確にして授業改善を図り授業力を高めるとともに、教員として学び続ける態度を身に付ける。</p> <p>(1)ガイダンスと班別協議(2年目までの成果と課題、班で共有の視点の設定)★ (2)OJTの進行具合の確認と支援◆ (3)班別授業研究(研究協議、ステージ2に向けた実践目標の設定)★</p>	3年目(全校種)教職員	6/7 8/23 1/13	784
806	2校目異動者研修	鈴木	<p>■ 新しい職場で求められる役割を考え、新たな視点での実践を通して中堅教員としての素地を培う。</p> <p>(1)①動画配信服務規律(教職員人事課)・メンタルヘルス(給与厚生課)・人権尊重教育研修(講師:人権・共生教育 担当課長) ◇ ②ガイダンス・班別研修(実践目標の設定) ◆ (2)学校の中核的な役割を果たす教員としての素地を養う ~OJTを含めて実践したことを基に班別協議を行い、目標を見直し、よりよい実践の見通しをもつ~ ★ (3)数年先を見通した取組を考える ~OJTを含めて実践したことを基に班別協議を行い、新たな視点を踏まえて数年先を見通した課題を考え、実践計画を立てる~ ★</p>	2校目異動者(全校種)教職員	①5/9～ ②5/31 8/8 12/26	638

807	中堅教諭等資質向上研修	長澤	<p>■ 川崎市の教員としての使命感を養うとともに、個々の豊かな実践力の向上を図る</p> <p>(1)開講式・研修ガイダンス・校内OJT研修・教職員服務規律研修・メンタルヘルス研修△</p> <p>(2)授業研究①:指導主事★</p> <p>(3)課題研究①:指導主事★</p> <p>(4)キャリア在り方生き方教育研修・特別支援教育に関する研修・校内OJTに関する研修・人権尊重教育に関する研修・児童生徒指導研修△</p> <p>(5)センター希望研修共催研修の受講:指導主事等(総合教育センター等)★◆△</p> <p>(6)(7)異校種交流研修:各学校(各学校)★</p> <p>(8)授業研究②:指導主事(総合教育センター、中原市民館)★</p> <p>(9)課題研究②:指導主事(総合教育センター、中原市民館)★</p> <p>(10)閉講式、優秀教員講演△</p>	中堅 (全校種)	5/16～ 6/17 7/25～ 8/31 8/1 1/5	2,230 1/5～ 1/31
808	15年経験者研修	山中	<p>■ 探索力をもって学び続け、実践的指導力の向上を図り、校内における中堅教員としての資質を養う。また、人権尊重教育・多文化共生教育についても研修を行う。</p> <p>(1)服務規律研修・市職員(教職員人事課)△ 「ミドルリーダーとして考えてほしいこと」・白井達夫(横浜国立大学)△</p> <p>(2)校内OJTについて全体会で共有し、グループに分かれて協議し、グループごとの 共通課題を決定◆</p> <p>(3)「人権尊重教育・多文化共生教育」について・市職員(教育政策室) (総合教育センター)★</p> <p>グループに分かれて、課題レポートについてのグループ協議 (総合教育センター)★</p>	全校種 教職員	4/25～5/20 5/25 12/26	413
809	新任総括教諭研修	門口	<p>■ 学校経営補佐等、総括教諭の職務遂行に必要な資質・力量の向上を図る</p> <p>(1)総括教諭の位置づけ(教職員人事課)、総括教諭のメンタルヘルス(給与厚生課)△</p> <p>これから総括教諭に期待すること 堀井英之(百合丘小学校長)、永野直樹(富士見中学校長)★</p> <p>(2)講演「企業における人材育成」平雅吉(三吉工業株式会社社長)、野渡和義(ユースキン製薬株式会社社長)、総括教諭として実践したこと(成果と課題)★</p>	新任総括教諭	4/18～21 4/22 12/14	145
810	新任教頭研修	吉田	<p>■ 新任教頭としての心得や必要となる実務について研修を行う。</p> <p>(1)講演「新任教頭に期待する」・市職員(総合教育センター)／実務研修「休暇制度について」・市職員(教職員人事課)／実務研修「勤務時間制度」・市職員(教職員企画課)／実務研修「職場におけるメンタルヘルスケア」・市職員(給与厚生課)／実務研修「特別支援教育サポート事業」及び「教育活動サポート事業」・市職員(指導課)★</p> <p>(2)／実務研修「学校のICT機器について、情報セキュリティ及び情報モラル教育、ID管理システム、かわさきGIGAスクール構想、GIGAアカウントと端末管理、かわさきGIGAスクール構想の校内推進について」・市職員(総合教育センター)／実務研修「人権・多文化共生教育の推進」・市職員(教育政策室)★</p> <p>(3)グループ討議「分散会による班別討議」・市立学校長★</p>	全校種 教頭	4/12 4/26 7/13	114
811	教頭研修	山城	<p>■ 教頭の職務遂行と学校運営にかかる諸議題について具体的な事例をもとに研修し、管理職としての資質向上を図る。</p> <p>(1)オンライン メンタルヘルス:(給与厚生課)、かわさきGIGAスクールにおける情報セキュリティ(情報・視聴覚センター)「活気のある職場をつくり出すベップトークのすすめ」日本ベップトーク普及協会 代表理事 岩崎由純◆</p> <p>(2)分散会一1「法規演習」:市職員(教育委員会教職員人事課)★</p> <p>(3)分散会二2「課題研修」:市立学校長(市立学校)★</p> <p>(4)オンライン開催、「学校安全の充実の取組」(健康教育課学校安全担当)、「人権尊重教育を進めるためには」(教育政策室人権・多文化共生教育)、「令和の日本型学校教育の実現のために~学校マネジメントの視点から~」田村学 (国學院大学)◆</p>	教頭 副校長	6/16 8/2 11/21 1/6	698
812	新任校長研修	野呂	<p>■ 新任校長の学校全体の運営、管理や指導を伴う経営力に関する研修を行う。</p> <p>(1)講話 総合教育センター所長 講演「学校経営と校長の役割」木下孝文校長先生(元校長会長) 「職場におけるメンタルヘルス」市職員(給与厚生課) ◆</p> <p>(2)実務研修「教職員の人事」他・市職員(教職員人事課) ★</p> <p>(3)講演「学校事故と法的責任」・市職員(学校法律相談担当弁護士(総務部庶務課) 講演「人権オンブズバーソン制度について」・川崎市代表人権オンブズバーソン ★</p> <p>(4)「GIGAスクール構想の推進と、情報管理・著作権」(総合教育センター情報・視聴覚センター指導主事) 班別討議「学校運営の現状と課題」・市職員(学校教育部) ★</p>	新任校長	4/14 4/25 7/27	97
813	校長研修	岡部	<p>■ 校長の職務遂行と学校運営にかかる諸議題についての最新の理論や実践等を学び、校長としての資質の向上を図る。</p> <p>(1)・双向型オンライン研修△ 講話「教育長講話」 所長 開講の挨拶 学校教育部長 挨拶 ・单方向型オンライン・動画配信研修◆ 講演「令和の日本型学校教育～学校としてどう取り組むか～」 上智大学 教授 奈須正裕 氏</p> <p>(2)・双向型オンライン研修△ メンタルヘルスについて 給与厚生課健康推進室 人事異動方針について 教職員部 教職員課 ・单方向型オンライン・動画配信研修◆ 講演「不登校の児童生徒へのかかわり方～学校として社会として支えていくために～」 NPO法人 不登校新聞社 編集長 石井 志昂 氏</p> <p>(3)・双向型オンライン研修△ 講話「人権尊重教育と多文化共生教育の推進について」教育政策室 所長 開講の挨拶 ・单方向型オンライン・動画配信研修◆ 講演「予測困難な時代の中での管理職のリーダーシップ～働き方改革・学校組織マネジメント～」 愛媛大学大学院 教授 露口 健司 氏</p>	全校種 校長	6/27 8/29 1/17	491
814	小学校夏季体育実技講習会	門口	<p>■ 各運動領域の実技研修を通して、資質・能力の向上と指導法の充実を図る。</p> <p>(1)器械運動(マット運動)、ゲーム①(ゴール型ハンドボール)、保健(3年生健康な生活)、表現運動(表現)、陸上運動(ハンドル走)、器械運動(鉄棒運動)★</p> <p>(2)体づくり運動(多様な動き、体の動きを高める運動)、陸上運動(リレー)、保健(5年かけがの防止)ボール運動(ネット型ブレルボール)、陸上運動(走り幅跳び) 講師:市立小学校教員★</p>	小学校 教諭・ 新規採用6年 未満教諭	7/28 7/29	288

815	中学校夏季体育実技研修会	門口	■ 各運動領域の実技研修を通して、資質・能力の向上と指導法の充実を図る。 (1)陸上競技、器械運動、球技ネット型、武道(柔道)★ (2)ダンス、球技ベースボール型(ソフトボール)、球技ゴール型(ハンドボール)、球技ネット型(卓球)★ 講師:市立中学校教員	中学校保健体育科教員	8/18 8/19	215
816	小学校新規採用教員水泳実技講習会	門口	■ 水泳指導における事故防止を含めた指導力の向上を図る。 講義「水泳学習の系統と安全指導◇ 実技①「低学年の指導法」 実技②「中学生の指導法(もぐる・浮く運動)」 実技③「中学生の指導法(浮いて進む運動)」 実技④「高学年の指導法」(クロール、平泳ぎ)★ 講師:市立小学校教員	小学校採用6年未満教員	6/1～6/17, 7/25	176
817	小学校音楽科実技研修	伊藤	■ 小学校教員の歌唱、器楽の基礎的な技能の向上と音楽科指導における指導力の向上を図る。 (1)歌唱実技及び指導法◇ (2)器楽実技及び指導法◇	小学校新規採用6年未満教諭	7/22～動画配信	161
818	中学校数学科初任者教員指導力向上研修	松本	■ 中学校数学科初任者を対象に、指導方法、評価方法等について研修し、指導力の向上を図る。 (1)数学科の授業づくりの基本・二瓶哲哉(附属中・教諭)★ (2)指導と評価について・松本崇(総合教育センター指導主事)★ (3)授業改善のために意識すること 松本崇(総合教育センター指導主事)・宮嶋俊吾(総合教育センター担当課長)★ (4)学習指導要領・授業づくりの基本・地曳善敬(元市内中学校教諭・星槎学園高校教諭)★ (5)小学校算数科授業づくり・岡田絵子(お茶の水女子大学附属小学校教諭)★ (6)中学校数学科授業づくり・伊吹竜二(学力調査官・教育課程調査官(国立教育政策研究所教育課程センター)★ (7)授業研指導案検討・松本崇(総合教育センター指導主事)・3年目数学科教員★	中学校数学科初任者	7/26 AM・PM 7/27 AM・PM 12/23 PM	50
819	中学校理科初任者教員指導力向上研修	吉田	■ 中学校理科初任者を対象に観察・実験の実技研修や市内にある理科関連の施設での研修を実施し、早期に指導力の向上を図る。 (1)授業力向上①総合教育センター指導主事★ (2)授業力向上②総合教育センター指導主事★ (3)授業力向上③総合教育センター指導主事★ (4)観察実験研修「多摩川がさがさ探検」平間小学校校長 佐川 昌広 氏 ★ (5)臨地研修「川崎の先端科学技術」★ (6)臨地研修★ 実技研修「おもしろ玉手箱」かわさき宙と緑の科学館 指導主事、職員、アトム工房	中学校初任者理科	7/26 7/27 11/10 12/23	40
820	新任教務主任研修	斎藤	■ 学校教育全般を企画・運営・評価する教務主任の資質・能力の育成のために、講義・演習等により校務遂行に資する研修を行う。 (1) 説明「公簿類の取扱」連絡・望月隆(総合教育センター指導主事)◇ 講話「新任教務主任への期待」・(川崎市立小学校長)◆ 演習「新任教務主任としての現状と課題」◆ (2)演習「教育法規の運用と解釈」・教育委員会教職員人事課担当課長)◇ 演習「情報セキュリティ・モラル」・金子裕輝(総合教育センター指導主事)◇ 講話と質疑応答「教務主任の実務」(2年目川崎市立小・中学校・高等学校教務主任)★ (3)説明「校務支援システム・学校HP・GIGAスクール構想の実現等」 金子裕輝(総合教育センター指導主事)◇ (4)グループ演習「学校組織マネジメント」★ 講師:白井達夫(横浜国大非常勤講師)	新任教務主任	4/27(1) 6/17(2) 7/4(3) 11/29(4)	143
821	養護教諭研修	野口	■ 養護教諭が専門職として自らの技術の向上に努め、適切な対応を行える力量を高める。 (1)「心肺蘇生法実技」・木鳥淨文他(日本赤十字社神奈川県支部)★ (地区ごとに2回に分けて実施) (2)「学校における緊急時の対応」・鈴木健介(日本体育大学保健医療学部准教授)★	養護教諭	2022/5/17 5/24 8/31	404
822	学校プール安全衛生・蘇生法研修	野口	■ 学校プールにおける水泳指導前に、安全衛生に関する知識についての研修を深め、水泳指導計画に活かす。また、日常の学校事故の緊急時に適切な処置を行なうことができるよう、心肺蘇生法の実技研修を通して技術の向上を図る。 「学校プールの水質管理について」・福嶋仁(川崎市立学校薬剤師) 「学校プール安全管理上の留意事項について」門口知弘(総合教育センター指導主事) 心肺蘇生法・木鳥淨文他(日本赤十字社神奈川県支部)★	全校種教職員	5/10	164
823	中学校外国語教育指導力向上研修	大庭	■ これからの外国語(英語)教育に必要な知識や技能を習得し、指導力向上を図る。 (1)学習者用デジタル教科書の活用事例紹介や学習評価に関する研修◆ (2)授業研究会★	中学校英語科教員	7/25 1/27	101
824	高等学校外国語教育指導力向上研修	大庭	■ これからの外国語(英語)教育に必要な知識や技能を習得し、指導力向上を図る。 (1)高等学校における言語活動や学習評価に関する研修★ (2)授業研究会★	高校英語科教員	6/22 1/27	13
825	小学校英語強化教員(ERT)	斎藤	■ 小学校英語強化教員として各小学校の支援の必要な知識と技能を確認し、共通理解を図る。 (1)学習指導要領における外国語教育の理解★ (2)GIGA端末を活用した実務研修★ (3)英語教育推進リーダーによる研修★ (4)これまでの振り返りと情報交換★ (5)授業研究協議★	ERT	4/5(1) 7/26(2) 12/6(3)	61

826	小学校外国語教育推進担当者(CET)	齋藤	■ 学習指導要領を踏まえ、各校の外国語教育を推進するために必要な知識を身に付ける。 (1)CET研修について・学習指導要領における小学校外国語教育について・情報交換◆ (2)英語演習(教室英語・Small Talk) 講師:外国人講師(ALT)★ (3)CAN-DOLリスト(学習到達目標表)の活用・情報交換◆ (4)小中連携会議・ALT配置日程調整会議◆	CET各校1名	6/2(1) 6/3(2) 11/18(3) 11/25(4) 3/3(5)	325
827	市内学校理科主任研修会	吉田	■理科授業における安全指導及び新学習指導要領の趣旨を踏まえた理科学習指導の周知を図ること等について研修する。また、子どもたちの理科への興味・関心を高めるために、教師自身が学び続けることの大切さや伝えるための工夫について学び、理科の授業力向上につなげる。 (1)校種別研修(小学校)★及び(2)校種別研修(中・高・特)★ ・安全指導 ・理科室の不要廃棄試薬品、薬品管理簿等について(総合教育センター指導主事) ・放射線教育・環境教育(太陽光パネル含む)について(総合教育センター指導主事) ・学習指導要領について[学習指導要領のポイント、学習評価、小学校プログラミング教材等](総合教育センター指導主事) ・理科におけるかわさきGIGAスクール構想(総合教育センター指導主事) ・全国学力・学習状況調査結果及び大学共通テストについて(総合教育センター指導主事)	小中高ろう学 校教員	11/30 3/17	176
828	小・中学校合同道徳教育研修	岡部	■ 講演会、授業公開を実施し道徳教育や道徳科に対する理解を深め小・中学校の連携を深める。(共催研修) (1)全体会(小・中学校の授業づくりについて、道徳教育について)◆ (2)授業研究会(小、中学校の授業を視聴し、研究協議をする)★	小・中 学校教 員	8/25 11/2 11/16 12/16 1/20 2/9	429
829	道徳教育推進教師研修	岡部	■各学校の道徳教育を推進していくために必要な知識や連携の在り方について研修する。 (1)特別支援学級での道徳科の指導について、情報交換◆ (2)中学校の実践報告、情報交換(各校の取組について)◆	小・中 学校教 員	6/21 2/13	298
830	キャリア在り方生き方教育・進路指導研修	望月	■ 児童生徒が将来の生き方にについて主体的に考え、選択できる能力や態度を育むキャリア教育・進路指導の推進を目指し、その担当者としての資質・能力の向上を図る。 (1)講演「学びを社会や将来とつなぎ、一人一人の自己実現を目指す『キャリア在り方生き方教育』」講師:安藤 勉(幸高等学校校長) 講演「『多様性を尊重する教育』につながる『心のバリアフリー』」 講師:東北大大学院教授 御手洗 潤◆ (2)実践報告 キャリア在り方生き方教育研究推進校 東小倉小・宮内中 情報伝達 川崎市市政100周年に向けた取組について 教育政策室他 事務連絡 キャリア・パスポートの引継ぎと活用★	小・中・ 高校教 職員	9/5 1/27	355
831	特別支援学級等新担任者研修	鹿島	■ 文部科学省で定められた必修研修で、特別支援教育についての理解を深めるとともに、指導についての基礎的事項の理解を中心に資質の向上を図る。 (1)「特別支援学級担任の基本」(特別支援教育センター指導主事鹿島理子)★ (2)「障害種に応じた指導の在り方」(群馬大学 霜田浩信教授)◆ (3)「特別な教育課程とサポートノートについて」(特別支援教育センター指導主事林香織)◆ (4)「特別支援学級の経営について」(川崎市立小杉小学校 前田三枝絵教諭)◆ (5)「自立活動について」(特別支援教育センター指導主事里恵子)◆ (6)「保護者との連携について」(特別支援教育センター指導主事鹿島理子)◆	特別支 援学級 等の新 担任者	5/9 5/24 6/1 6/17 7/7 7/15	736
832	特別支援学級等新担任者 2年目研修	林	■ 川崎市特別支援教育推進計画に基づき教員の専門性の向上を目的とした研修 (1)「かわさきGIGAスクール構想ステップ2に向けて」(特別支援教育センター林香織指導主事)◆ (2)班別研修レポート発表(特別支援教育センター指導主事)★	小・中・ 特 別支 援学級 等 2年目 の担任	5/20 11/14	187
834	通級指導教室新担任者等研修	清水	■ 障害のある子どもの見方、指導計画、具体的な指導、関わり方についての研修 (1)「通級指導教室の指導について」 清水寿紹(総合教育センター)◆ (2)「言語の指導」講師:朝倉千代陽美(川崎小通級指導教室教諭)、小林加代子(御幸小通級指導教室教諭)◆ (3)「情緒の指導」講師:持田美和(富士見台小通級指導教室教諭)、鈴木麗子(久本小通級指導教室教諭)◆ (4)「きこえの指導」講師:三上庸子、江守里香(聾学校教諭)ほか◆ (5)「思春期の特性・中学校通級の指導」講師:鈴木美穂(御幸中通級指導教室教諭)ほか◆ (6)「事例に基づく協議及び指導助言」講師:鈴木麗子(久本小通級指導教室教諭)、朝倉千陽美(川崎小通級指導教室教諭)、小林加代子(御幸小通級指導教室教諭)、持田美和(富士見台小通級指導教室教諭)ほか★	通級指 導教室 を初め て担任 する教 員等	4/18 5/13 5/23 6/20 7/8 8/30	110
836	支援教育コーディネーター養成研修	山田・ 中澤	【小学校】 ■ 校内の支援教育を推進する支援教育コーディネーターとしての役割に必要な知識や技能を習得する。 (1)「コーディネーターの役割」(教育相談センター指導主事)★ (2)「アセスメントの理解」(特別支援教育センター指導主事)★ (3)「チーム支援のためのケース会議の理解と実際」(東海大大学教授 芳川玲子)★ (4)「ワークショップ形式で個別指導計画の作成」(特別支援教育センター指導主事)★ (5)「教員のためのカウンセリング基礎」(日本女子大学教授 川崎直樹)★ (6)「外国につながる児童生徒理解とICTを活用した支援」(人権・多文化共生教育担当指導主事)★ (7)「児童理解(学校巡回カウンセラーとの連携)」(教育相談センター指導主事)★ 【中学校、高等学校、特別支援学校】 ■ 校内、地域における特別支援教育を推進していく役割に必要な資質、技能を養う。 (1)「コーディネーターの役割・発達障害の理解」(特別支援教育センター指導主事)◆ (2)「思春期と発達障害」(群馬大学教育学部教授 霜田浩信)◆ (3)「アセスメントの理解」(特別支援教育センター指導主事)★ (4)「ワークショップ形式で個別指導計画の作成」(特別支援教育センター指導主事)★ (5)「教員のためのカウンセリング基礎」(日本女子大学教授 川崎直樹)★ (6)「外国につながる児童生徒理解とICTを活用した支援」(特別支援教育センター指導主事)◆	初めて のコー ディ ネー ター ※小は 希望に より2年 目以降 のコー ディ ネー ターも 参加可	【小】5/10, 7/4/5, 8/26.9/12, 10/21,1/30 【中・高・特】5/10, 5/31.7/4, 8/26.9/12, 10/21	498
837	新任栄養教諭	川城	■ 栄養教諭として専門と経験を活かしながら、職務に対しての理解を深め、校務遂行に必要な力を高める。 (1)「栄養教諭としての連携の在り方」小田貴子(健康給食推進室指導主事)★ (2)「栄養教諭としての役割」富田登子(川崎市立東橋中学校 栄養教諭)★	新任栄 養教 諭	5/25 10/19	4

839	GIGAスクール構想研修 (GSL研修)	今	<p>■ GIGAスクール構想リーダー)を対象に、「かわさきGIGAスクール構想ステップ2」の理解や、校内での役割や推進計画の作成などを行う。</p> <p>(1)かわさきGIGAスクール構想ステップ2とは、情報交換★ (2)伝達研修、区ごとの情報交換◆ (3)伝達講習、Googleサイト研修等、推進校取組報告、情報交換◆</p>	小・中・特別支援学校・高等学校 GSL	4/25・26 8/29・31 1/13・18	565
840	情報教育担当者会研修	福山	<p>■ GIGAスクール構想、学校ウェブサイト、ICT整備、校務用コンピュータ等についてアカウント管理や情報モラル、整備予定やセキュリティの伝達を情報教育学校担当教諭に対して行う。(講師:情報・視聴覚センター 指導主事)</p> <p>(1)コンピュータ等の保守、校務支援システム、情報モラル教育、GIGA端末、学校ウェブサイト△ (2)校務用端末管理、校務支援システム、情報セキュリティ・情報モラル教育、GIGAスクール構想、著作物の適切な利用★ (3)GIGAスクール構想、校務用端末、情報セキュリティ・情報モラル教育、学校ウェブサイト◆</p>	全校種教職員 情報教育学校担当教諭	5/9 10/14 1/30	518

(2) ICT活用

番号	コース名	担当	内容	対象	実施日	参加者人数	
101	GIGAスクール構想研修	今	<p>■ GIGAスクール構想の中で導入された端末の使い方を習得し、授業や校務で実践的な活用方法について学ぶ研修</p> <p>(1)新任GSL研修◆ (2)管理者向けGIGA端末操作研修 講師:Google認定講師★ (3)基礎からのGIGA端末操作研修★ (4)デジタル教科書活用研修 講師:デジタル教科書各ビューアー担当者★ (5)GIGA端末持ち帰りと情報モラル◆ (6)基礎からのマイライシード操作研修 謲師:(株)ベネッセコーポレーション 風岡賢吾★ (7)基礎からのGIGA端末活用研修★ (8)基礎からのiPad操作研修★ (9)市内アンケート結果から見えていた端末活用が進む学校・学級づくり★ 講師:東京大学大学院情報学環特任教授 山本良太 (10)GIGA先進都市から学ぶ端末活用の秘訣 講師:春日井市立高森台中学校長 水谷年孝★◆ (11)マイライシードを活用研修 謲師:(株)ベネッセコーポレーション 風岡賢吾★ (12)おもしろプログラミング研修 謲師:日本電気通信システム株式会社社員★ (13)主体的・対話的で深い学びに向けた端末活用研修★ (14)Kickstart Programニア研修 謲師:Google認定講師★ (15)Kickstart Programアドバンス研修 謲師:Google認定講師◆ (16)ICT活用指導力向上研修 謲師:Google認定講師◆ (17)個別最適な学び・協働的な学びとGIGAスクール構想 謲師:信州大学教育学部准教授 佐藤和紀◆ (18)ICT活用指導力向上研修 謲師:Google認定講師◆ (19)一人一人の子どもを主語にする(1人1台端末の活用)◆ (20)かわさきGIGAスクール構想ステップ3にむけて◆</p>	全校種教職員	6/2 6/13 6/16 6/20 7/25 8/2 8/5 8/19 8/23 10/13 11/17	6/9 6/14 6/17 6/21 7/28 8/4 8/18 8/22 8/24	598
102	情報セキュリティ及び情報モラル教育	金子	<p>■ 情報セキュリティの重要性の理解とともに、情報社会での生き抜く子どもたちを育てる授業方法を習得し、学校全体で取り組む企画力、実践力を身につける研修(横浜国立大学教職大学院連携研修)</p> <p>(1)情報セキュリティ及び情報モラル教育 講師:指導主事・山本 光(横浜国立大学)◆</p>	全校種教職員	8/24	5	
103	小学校情報教育研究会との共催研究	石橋	<p>■ かわさきGIGAスクール構想で整備されたICT環境での授業づくりについて考え、研修で習得したことについて各学校でいかすための研修。</p> <p>(1)(2)ICT活用の実践報告及び実践交流を通して、各校で効果的なICT活用を取り入れた授業やかわさきGIGAスクール構想実現に向けて支援を行う。★</p>	全校種教職員	7/27	102	

(3) 授業力向上研修

番号	コース名	担当	内容	対象	実施日	参加者人数
201	国語科教育	野呂	<p>■ 国語教育の動向を踏まえながら、学習指導について、講義や研究報告、実践発表、演習等を通して研修することにより、授業者としての資質の向上を図る。(共催研修)</p> <p>(1)学びの主体を子どもにおいた授業づくり 講師:中村和弘(東京学芸大学教授)★ (2)授業づくり演習 講師:小学校常任委員/中学校教諭★</p>	全校種教職員	7/27 AM・PM	81
202	社会科教育	鈴木	<p>■ 新学習指導要領の理念を生かした社会科の授業の在り方を、講義や実践提案、演習を通して研修し、授業者としての資質向上を図る。</p> <p>(1)授業改善研修会 中学校研究部会常任委員(中学校向け)★ (2)小学校授業づくり研修会 小学校研究会常任委員(小学校向け・共催研修)★ (3)県内臨地研修会 小学校研究会常任委員(小学校向け・共催研修)▲</p>	全校種教職員	6/18 7/28 7/29中止	231
203	算数・数学科教育	松本	<p>■ 児童生徒の学習意欲を高める授業のあり方についての研修を通して授業者としての資質の向上を図る。</p> <p>(1)算数・数学科の授業改善▲ (2)小学校算数科授業づくりの基本 岡田絵子教諭(お茶の水女子大学附属小学校・教諭)★ (3)中学校数学科授業づくりの基本 両角達男教授(横浜国立大学 教授)★</p>	全校種教職員	7/27 AM・PM	38

204	理科教育	吉田	■授業研究や児童・生徒役として受ける研修、科学館や生田緑地での臨地研修を通して、子どもたちが主体的に学ぶためにはどのような手立てが必要なのか。子どもの学びを視点とした導入・展開の工夫、単元を貫く課題や学習問題の設定の仕方、子どもの表現の引き出し方・見とり方、GIGA端末の活用などについて考え、授業力を向上させる。 (1)「授業で理科を語り合おうー小・中学校合同授業研究ー」(共催研修)市立小学校理科教諭▲ (2)「電気の利用(小学校プログラミング教育)」総合教育センター指導主事★ (3)「小学校理科における安全指導と薬品管理」総合教育センター指導主事★ (4)「GIGA端末の活用と授業力向上のための研修」総合教育センター指導主事★ (5)「子ども達の資質・能力を育むための授業改善の手立て」国士館大学文学部 教授 小野瀬倫也氏★ (6)「地層・天体観測研修」(共催研修)小学校理科教育研究会、かわさき宙と緑の科学館職員★	全校種教職員	7/6(中止) 7/28 7/29 12/21	55
205	生活科教育	山城	■「いのち」について見つめ、考える機会をつくることができる動物愛護センターの「いのちMIRAI教室」を体験する。体験を生かした生活科の単元や授業づくりについて研修する。★	小学校、特別支援学校教員	7/25	6
206	音楽科教育	伊藤	■今求められている音楽科教育の充実に向け、授業の充実と改善の具体的な方策を実技、講義を通して研修し、授業力の向上をめざす。 (1)小学校音楽科共催研修「管楽器・器楽指導」講師:音楽教育推進協議会★ (2)ミューザ川崎共催研修「音楽科の学びを深めるための研修」講師:東京交響楽団コンサートマスター 水谷晃 作曲家 松岡あさひ (3)中学校音楽科共催研修 ★ 講師:中学校音楽科教科調査官 河合紳和	(1)小教員 (2)全校種教員 (3)中教員	7/28 8/8 2/1	140
207	図画工作・美術科教育	長澤	■図画工作・美術科教育における今日的な課題や問題点を広い視野から把握し、自己の授業改善への具体的な手立てを研修する。 (1)図画工作科指導力向上のための研修(小学校図画工作科研究会共催研修)★ 実技研修を行う 講師:図画工作科研究会常任委員 (2)図画工作科・美術科指導力向上のための研修★ 題材を設定して評価の計画を立て、指導と評価の一体化を図る研修 講師:指導主事	全校種教職員	7/28 7/27	106
208	体育・保健体育科教育	門口	■講演や実技研修を通して、体育・保健体育科教員の資質の向上を図る。 (1)「空手道」の指導法(共催研修) 講師:川崎市空手道連盟 ★ (2)「表現」の指導法(共催研修) 講師:山崎朱音(横浜国立大学准教授) ★ (3)「体育・保健体育におけるGIGA端末の活用」(共催研修) 講師:鈴木直樹(東京学芸大学准教授) ★ (4)剣道の指導法(共催研修) 講師:市内中学校教員3名 ★	全校種教職員	5/30 6/29 7/13 10/18	126
209	家庭、技術・家庭科(家庭分野)教育	川城	■実践的な実技研修を通して、スキルアップや体験的な学習の工夫ができる教員の授業力向上を図る。家庭、技術・家庭科(家庭分野)「生活を豊かにする物の製作」(中学校施術・家庭科研究会共催研修)講師:八谷まみ 小野田泰子(株式会社ジャノメソーリングクリエーション室インストラクター)★	全校種教職員	8/18	34
210	技術・家庭科(技術分野)教育	望月	■実践的・体験的な活動を通して、教員の指導力や授業力の向上を図る。 (1)技能・技術研修1(共催研修)材料と加工の技術 講師:井上 潔(西中原中学校総括教諭)★	中学校・高等学校教職員	8/18	18
211	英語科教育	斎藤・大窪	■新しい英語教育に必要な指導方法について学び、授業改善を目指す。 (1)英語をより多く使って授業を進めよう 講師 外国人講師(ALTトレーナー)★ (2)新学習指導要領の趣旨を踏まえた評価について学ぶ~パフォーマンス評価の進め方~ 講師 玉川大学 工藤 洋路◆ (3)ICTを活用した授業づくり 講師 英語教育推進リーダー2名★	全校種教職員	8/18	72
213	道徳教育(いのち・こころの教育)	岡部	■「いのち」について見つめ、考える機会をつくることができる動物愛護センターの「いのちMIRAI教室」を体験する。子どもたちの豊かな心を育てるために、生命尊重の気持ち等が育まれるような単元や授業づくりについて研修する。★	小学校、特別支援学校教員	7/25	10
214	特別活動	下村	■学級会の具体的指導等を理論や実践を通して、学級活動の授業力の向上を図る。 (1)具体的な学級会の進め方 小学校特別活動研究会常任委員★	全校種教職員	8/24	16
215	総合的な学習(探究)の時間	山城	■体験活動を学習活動に適切に位置付けて、単元構想する資質の向上を目指す。 (1)(2)福祉単元の充実 福祉教育の概論についての講演、各区社会福祉協議会職員の情報提供や福祉疑似体験から、各校の福祉単元の課題を見出す。実践事例発表を参考に、自校の福祉単元の見直しを図る。高木 寛之(山梨県立大学教授)★ (3)多摩川ガサガサ体験 多摩川における生き物との触れ合いや安全指導の講義を通して、体験を生かした単元のつくり方について研修する。中本賢(多摩川塾)★	全校種教職員	8/18 7/27	49
216	高校教育	山中	■新学習指導要領で示された資質・能力の育成の実現に向けて、主体的に学習に取り組む態度の指導と評価について研修する。 講師 浦和大学 特任教授 工藤 文三◇	高校教職員	8/24	3

(4) 教育課題研修

番号	コース名	担当	内容	対象	実施日	参加延人數
301	研究の進め方	松本	■ 校内研究や研究推進校等での授業研究の進め方や研究のまとめ方について研修し、学校での研究を推進していくための資質の向上をめざす。 (1)はじめの一歩を踏み出そう！小林宏己(早稲田大学教授)◆ (2)笑顔で学び合う研究協議に変えよう！小林宏己(早稲田大学教授)★ (3)1年間の研究の進め方を振り返ろう！小林宏己(早稲田大学教授)★	全校種教職員	4/15 6/29 12/13	24
303	子どもの心をひらく児童生徒指導	下村	■ 玉川大学TAPセンターによる信頼関係を育てる参加体験型の研修を通して、よりよい人間関係をつくる手立てを学び、学級経営、人権尊重教育に生かす。 村井伸二(玉川大学TAPセンター准教授)★	全校種教職員	8/24	6
304	初任者を対象とする川崎市平和館見学	野口	■ 初任者研修において、川崎市の社会教育施設の専門的な役割について理解を深める機会の一つとして、川崎市平和館を実際に見学し、川崎市の歴史等について学び日常の教育活動に生かす。	初任者・2年目	8/18	8
305	食育	川城	■ 学校全体で取り組む食育の推進に向け、食育の進め方や学校全体での取り組み方について学び、食育の実践につながる資質・能力を身に付ける。 食育の目的について理解し、学校全体で推進する取組について学び、教科だけではなく様々な場面で食育を推進できるようにする。講師：川城晴奈(総合教育センターカリキュラムセンター指導主事)、福山恵美子(大師小学校 栄養教諭)★	全校種教職員	10/20	43
307	主権者教育	鈴木	■ 川崎市の主権者教育について、主権者教育の手引き「自分の意思が社会を創る」の活用と実践について学ぶ。 (1)主権者教育概要説明・授業計画の作成 ★	全校種教職員	8/8	13
308	企業派遣	松本	■「カワスイ」を運営する株式会社アイ・レジャー・エンターテインメントのビジネスモデルを学ぶとともに、市内学校団体なども来場する「カワスイ」を研修の題材として、子どもへの関わり方や考え方について学び、様々な視点から教育活動に取り組むことができる資質や能力を高めます。★	全校種教職員	8/18	12
309	学級新聞づくり	門口	■学級通信等を発行する意義や役割、書き方やまとめ方について学ぶ。(共催研修) 講師：市内中学校教員▲	全校種教職員	中止	
312	教育相談Ⅰ いじめをうまない学級学校づくり	山田	■いじめの実態や発生の背景等の理論、そしてその具体的な対応法や未然に防ぐ方法をロールプレイなどを通して実践的に学ぶ。★	全校種教職員	7/26	40
313	教育相談Ⅱ ケース会議の理解と実際	山田	■アセスメントに基づいた児童生徒の理解と対応の仕方、ケース会議の進め方を講義と演習を通して学ぶ。 講師：東海大学心理・社会学科教授 芳川玲子★	全校種教職員	7/26 7/28	48
314	教育相談Ⅲ 子どもの自立を考える	山田	■「ジブリ映画」を題材に、子どもが自立に向かう育ちの過程を知り、児童生徒理解を深める。 講師：ちば心理教育研究所所長 光元和憲◆	全校種教職員	8/20	32
315	教育相談Ⅳ 教員のための学校精神保健	山田	■不安が高く過敏なHSCと呼ばれる子どもたちへの支援を中心に、具体的な症例を用いながら、基礎的な知識を学ぶ。 講師：明治大学子どものこころクリニック院長 山登敬之◆	全校種教職員	8/18	21
318	特別支援教育Ⅰ 「通常の学級での支援」	中澤	■ 通常の学級に在籍する児童生徒への支援について、各分野の教授等専門家から理論と具体的な方法を学ぶ。 (1)「矯正教育と特別支援教育」(多摩少年院 教科調査官 山崎裕子)◆ (2)「発達障害領域の作業療法アプローチ」 (よこはま港南地域療育センター 作業療法士 松本政悦)◆ (3)「KABC-IIの解釈と指導、通常の学級と通級指導教室のより良い連携」 (東京学芸大学障がい学生支援室 講師 小林玄)◆ (4)「発達障害の認知機能と支援」 (川村学園大学文学部心理学科 准教授 今井正司)◆ (5)「教室でできる認知行動療法」(三重大学教育学部分野 教授 松浦直己)◆ (6)「校内支援体制構築に向けて～個に応じた支援を進めるための方策～」 (横浜創英大学看護学部 非常勤講師 中田正敏)	全校種教職員	7/26,7/27,7/28 /2	558
319	特別支援教育Ⅱ 「特別支援学級・特別支援学校での支援」	清水	■ 特別支援学級、特別支援学校に在籍する難聴、弱視、重度の障害がある児童生徒に対する基礎知識について理解を深め、実践的指導力の向上を図る。 (1)難聴教育概論(川崎市立聴学校教諭 江守里香、西村霞)◆ (2)難聴指導の実際、レポート報告(川崎市立聴学校教諭 江守里香、西村霞)★ (3)弱視の指導、弱視教育概論(横浜市立盲特別支援学校教諭 竹藤清美、鷺崎せいいら)★ (4)重度障害児教育概論(上越教育大学名誉教授 土谷良巳)★ (5)重度障害児・弱視児童生徒レポート報告及び協議 (上越教育大学名誉教授 土谷良巳)★	特別支援学校、特別支援学級担任	5/23,6/20,6/29,7 /14,8/3	16

(5) 職能別スキルアップ研修

番号	コース名	担当	内容	対象	実施日	参加延人數
401	養護教諭キャリアアップ	野口	<p>■ 社会や環境の急激な変化により、子どもの健康課題は複雑になり多様化してきている。その解決のために養護教諭の果たす役割は益々重要となってきた。専門的な知識、技術を演習を通して学び資質の向上を図る。</p> <p>(1)令和3年度 文部科学省健康教育指導者養成研修報告 渡部真代(川崎市立住吉小学校 養護教諭)</p> <p>(2)性に関する指導 佐見由紀子(東京学芸大学教職大学院教授)◆</p>	養護教諭	8/19 8/22	71
403	栄養教諭・学校栄養職員	川城	■ 食に関する指導について学び、指導力の向上を図る。 「病気の予防～生活のしかたと病気①～」「血管模型の教材づくり」・三輪 安子(中部学校給食センター指導主事)・光眞 啓子(川崎市立長尾小学校栄養教諭)★	栄養教諭・学校栄養職員	9/22	30
405	幼児教育と小学校教育の接続	山城	<p>■ 幼児教育と小学校教育の円滑な接続 幼児期に培った力を小学校教育で生かすために、幼小の学びの接続について研修する。</p> <p>子どもの学びと育ちをつなぐために～学びの芽生えから自覚的な学びへ～ 講師 佐藤 康富(東京家政大学 児童学科 教授)◇</p>	全校種教職員	8月上旬より3月上旬まで	26

(6) リクエスト研修 その他

番号	コース名	担当	内容	対象	実施日	参加延人數
	リクエスト研修		<p>■ 学校から要請されたテーマに応じて、担当の指導主事が講師を務める。</p> <p>(1)要請に応じて隨時設定・指導主事(総合教育センター)</p>	全校種教職員		1,772

3 カリキュラムセンター事業

学習指導要領、かわさき教育プラン等を踏まえて、教育諸課題に係る研究を行うとともに、研究成果をもとに教員の資質・能力を高めることや学校の指導体制を構築するための支援を行った。

■事業目標

- 1 学習指導要領等に基づく教育課程の編成や教育活動の円滑な実施に向けた指導・支援の充実
- 2 教育課題への対応、施策研究、調査・基礎研究、教育実践に資する研究等の推進
- 3 教職員の資質・能力や指導力の向上を目指した研修の充実と研修推進体制の整備
- 4 各教科研究会等との関連事業や各種教育課題関連事業等の円滑な推進
- 5 所管業務の効率的な執行

■事業内容

1 学習指導要領に基づく教育課程の編成や教育活動の円滑な実施に向けた指導・支援の充実

(1) 拡大要請訪問・要請訪問の実施

- 各学校の教育課程の編成や授業力向上に向けた校内研修や研究を支援するため、指導主事をチームで派遣する拡大要請訪問を実施するとともに各教科等の個々の要請に応じて指導主事を派遣した。また、拡大要請訪問が各学校の年間を通じた授業改善への取組に位置付けられるよう支援した。
 - 新型コロナウイルス感染症の感染状況により、オンラインで実施するなど当初の予定から変更したケースもあったが、各学校の実態や要望に応じて実施した。
- ★拡大要請訪問 23 校実施（オンライン 2 校）

(2) 教育課程研究会の開催及び教育課程編成・学習指導に係る指導資料の作成

- 教育課程研究会は、授業研究会は参考集型、実践報告会等は、双方向型オンラインで実施した。授業研究や研究協議を通して、学習指導要領の趣旨や内容について周知するとともに、「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」、「児童生徒の発達を支える指導の充実」等についての理解が深まるように努めた。

★6月 授業研究会 8月 実践報告会等は双方向型オンラインで実施

- 小・中学校については、各学校が学習指導要領及びかわさき教育プランの理念・目標の実現に向けた教育課程編成や授業づくりに活用できる資料として総則事例集を作成した。同様に、研究(部)会との連携を図りながら各教科等の学習指導要領実践事例研究資料を作成し、Web掲載を行った。
- 学習指導要領の趣旨等について、高等学校各教科等研究協議会等の機会を活用し、伝達・周知した。また、総則について「総則・総合的な探究の時間」部会の一環として、総則についてのオンライン動画を作成し、各学校での研修等に活用できるようにした。

(3) 習熟の程度に応じたきめ細かな指導の研究及び支援

- 「習熟の程度に応じたきめ細かな指導」が他教科等の授業や教育活動に生かされるよう、様々な場面で成果や考え方を広め、実践につながるよう支援した。
- ★年2回の担当者会を双方向型オンライン形式で開催
- ★第1回の担当者会において、G I G A 端末を活用した学習ソフト機能の紹介と個に応じた指導への生かし方等について講師を招いて研修

2 教育課題への対応、施策研究、調査・基礎研究、教育実践に資する研究等の推進

○研究主題「自己実現を図り、持続可能な社会を創る資質・能力の育成」のもと各種研究に取り組んだ。

(1) 学校教育に関する調査・基礎研究

○指導主事による施策研究及び調査・基礎研究として、研修の見直し、学力調査分析活用、評価、教科用図書の調査研究、G I G A端末を用いた学習指導等に取り組んだ。

○学習評価について、教育課程研究会や新教育課程説明会、学習編成届説明会などの機会で周知した。さらに、各学校からの要請に応じて校内研修の講師を務め、「観点の趣旨」や「指導と評価の一体化」などについて説明し、評価のための評価ではなく、資質・能力を育成するための評価について、支援することができた。

(2) 各学校の教育実践に資する研究の推進

○研究(部)会等との連携を図り、長期研究員を配置した研究会議、指導主事と研究員による研究会議を中心に各教科等・教育課題に係る実践研究を推進し、各学校の授業改善等の取組を支援した。

○センター研究報告会は、報告分科会（集合・オンライン形式）と研究報告動画の配信という2段構成で実施した。「報告内容を複数学びたい」という声にも対応できるようになり、また、「先生方の都合の良いタイミングで何度も」報告内容を視聴することや複数の研究報告を視聴することが可能となった。

★長期研究員による研修 6研究 指導主事と研究員による研究 6研究

カウンセラー研究 1研究 その他各室指導主事による指導主事研究

★報告分科会参加者合計 603名

3 教職員の資質や指導力の向上を目指した研修の充実と研修推進体制の整備

(1) 必修・希望研修の充実

○教職員のライフステージに応じた年次研修を中心とする必修研修、教職員のニーズに応じた希望研修を教員育成指標に基づいて実施し、専門職としての資質・能力や指導力の向上を図った。また、「学び続ける教員」の育成と「働き方、仕事の進め方」の観点の両面からの研修の充実と見直し等、研修推進体制の整備に努めた。

○研修の目的や内容、新型コロナウイルス感染症の感染状況等に応じて集合形式とオンライン形式を適切に選択し実施した。G I G A端末を活用したオンライン研修は、働き方、仕事の進め方の観点からも有効であった。

○新任栄養教諭研修については、健康給食推進室と連携して市内の栄養教諭を講師として集合形式で実施した。職務や役割についての理解が深められるように感染対策を講じながら、グループによる協議や中学校内見学を実施した。

(2) 指導改善研修の充実

○研修指導員の指導の下、受講者の研修課題に応じた適切な研修を実施した。

○教育活動の振り返りや、教師としての専門性を高める研修を行うことにより、受講生の指導力の向上につながった。

○受講者の実態と課題に応じた研修計画を立て、関係機関、施設と連携を取りながら適切に研修を実施した。

4 各教科研究会等との関連事業や各種教育課題関連事業等の円滑な推進

(1) 学校経営に係る教育課題への対応

- 小・中学校の校長会と連携を図り、川崎市学習状況調査を実施した。調査結果を分析し、報告書を作成するとともに、報告会等を通じて各学校へ全市的な課題と授業改善の視点等を周知した。拡大要請訪問等を活用し、各種調査の結果等をもとに、指導主事が授業改善に向けての指導助言を行った。
- 学習状況調査に関しては、小学校は5月、中学校は11月に予定通り実施し、有意なデータを得ることができた。
- 各教科等・教育課題等に係る研究推進校事業や研究研修支援講師派遣事業等を実施し、各学校の教育活動の改善・充実に向けた取組を支援した。
- 研究推進校事業は、感染予防対策を講じながら、可能な限り研究を進めるよう推進し、各学校の実態に合わせた報告を実施することができた。
★研究研修支援講師派遣 32件 研究推進校 29校
- 川崎市の教員を目指す大学生等に向けた「かわさき教師塾『輝け☆明日の先生』」を開講した（6日間 全12回）。受講生に対して、川崎市が求める教員としての基本的な資質・能力を身につけ、川崎市の教育への关心や理解を深めることを目的に、集合形式で講義、演習を行った。

(2) 各教科等に係る教育実践への対応

- 各教科等に係る関連事業については、研究（部）会と連携を図りながら適切に実施した。
- 各プロジェクトチームにおいては定期的な会議や必要に応じた臨時的な会議をもち、円滑な業務の実施に向けた話し合いや相談、確認等を行うことができた。
- 小・中・高等学校へのALT配置、小学校へのERT配置による外国語教育の支援を行った。また、英語教育改革に対応した小学校中核英語教員研修（CET）研修、中学校外国語教育指導力向上研修、高等学校外国語教育指導力向上研修を円滑に実施し、教員の英語力及び指導力の向上を図った。
- 小学校英語強化教員（ERT）の支援により、学級担任の英語授業力向上を図った。
★配置ALT数 小・中学校 107名 高等学校 6名
- 理科教育の推進について、横浜国立大学と連携して「現職教員CST養成プログラム」を実施し、中核理科指導教員の育成を図るとともに、理科希望研修、中学校理科初任者教員指導力向上研修、市立学校理科主任研修を実施し、授業力向上のための支援を行った。また、小学校の全校に理科支援員を配置し、理科の授業における観察・実験活動の充実及び教員の資質・能力の向上を図った。
★理科支援員配置校 小学校 114校
★CST認定者数 2名、全74名、CSTによる研修実施 6回
- 「特別の教科 道徳」が円滑に実施されるよう、小中合同道徳教育研修や道徳教育推進教師研修、教育課程研究会等において、指導方法及び評価等についての研修を充実させた。
- 道徳教育推進教師研修では、自校の道徳教育を推進していくための具体的な取組例を紹介し、道徳教育の充実を図った。
★小中学校道徳教育研修は約220名受講
- 主権者教育、キャリア在り方生き方教育、学校進路対策、高校教育等各種教育課題に対する事業等を円滑に実施した。
- キャリア在り方生き方教育については、教育政策室や中学校校長会進路指導部会と連携して、双方型オンラインと総合教育センター内の集合の2つの方法で実施した。
- 全面実施となった「キャリア・パスポート」の利用方法や、小・中・高の引き継ぎについて周知した。
- 主権者教育、消費者教育等の各事業において、各部署との連携を図り、円滑に事業等を進めることができた。
- 主権者教育については、担当者説明会で周知を図る等の取組を行うとともに、夏季研修会を実施した。

○教育課題研究、副読本かわさきの編集・発行、読書のまち・かわさき事業、子どもの音楽活動推進事業等の各種事業を円滑に実施した。

(3) 人権尊重教育の推進

○教育政策室に協力することや進路説明会の実施等に係る事業を円滑に実施した。

5 所管業務の効率的な執行

(1) 各種指導事務の円滑な推進

○各種事業について、他室や指導課、区教育担当、教育政策室等と連携して実施した。

○学籍・指導要録等公簿の作成に係る事務、夜間学級運営、教育実習等の指導事務を円滑に実施した。

○夜間学級への入学希望者の相談、面接等の対応を学校の取組を支援しながら行うことができた。

(2) 各種事業の基盤としての所内業務等の円滑な推進

○研究・研修推進に係る担当者会の企画・運営などの所内及び室内業務を円滑に実施した。

○研究推進担当者会では、業務分担に基づき、感染拡大防止とＩＣＴ機器の活用を踏まえ、研究全体会、研究報告会等の改善を行った。

○研修推進担当者会では、教員育成指標に基づき、先生方の学びをより充実させるために、ＩＣＴ機器の効果的な活用と感染防止対策等を踏まえ、各研修等の見直し及び改善を図った。

○会議の精選、研修等応援体制等を見直した。

○指導主事同士が定期的な会議や必要に応じた臨時的な会議をもち、円滑な業務の実施に向けた話し合いや相談、確認等を行うことができた。

(3) 教育研究所連盟等に係る業務の円滑な推進

○神奈川県、関東地区、指定都市、全国の各教育研究所連盟等との連携を図った。

○県教連について、集合形式による開催となり、前年度の研究委員が研究成果を報告した。

○指定都市共同研究については、政令指定都市20市で調査研究を行い、共同報告書を作成した。

(4) 横浜国立大学との連携事業

○アドバイザリースタッフ派遣事業、連携講座の開催等の連携事業の推進を図った。

★アドバイザリースタッフ派遣 19件

4 情報・視聴覚センター事業

情報・視聴覚センターでは、「教育の情報化」を推進するために市立学校のICTの環境整備、市立学校のコンピュータネットワーク（教育用・校務用・図書館用）の運用管理、教員の授業力向上に向けてICT活用指導力を高めるための研究・研修を行っている。令和4年度は、「かわさきGIGAスクール構想ステップ2」の段階に入り、令和2年度に整備したICT環境と1人1台端末を活用した教育活動が学校で円滑に実施されるよう、活用に向けた学習支援や周知等を行った。

また、7区にある視聴覚ライブラリーとの連携を図り、市民団体や学校の教育・学習活動に役立てるための視聴覚教材の貸出事業の推進を行っている。

■重点目標

I 「川崎市立学校における教育の情報化推進計画」に基づく事業の推進

- 1 教育の情報化に向けた研究の推進
- 2 授業力向上に向けたICT活用指導力を高めるための研修の充実
- 3 市立学校のICT機器の計画的整備
(GIGAスクール構想による、校内ネットワーク・端末等整備)
- 4 川崎市教育情報ネットワークシステムの活用促進
- 5 校務支援システム・学務システム・SAINS-WEBの活用促進、ネットワーク及び端末の最適化
- 6 教職員の情報モラルの徹底と市立学校の情報セキュリティの向上
- 7 市立学校インターネット問題に対する取組の推進

II 視聴覚センター事業の推進

■事業内容（事業概要）

I 「川崎市立学校における教育の情報化推進計画」に基づく事業推進

○市の教育プランや総合計画を考慮し作成した、「川崎市立学校における教育の情報化推進計画」（令和4年3月版）に基づき、ICT機器整備や研修の充実を図り、児童生徒の情報活用能力の育成、教員の指導力の向上、学校業務の効率化による教員の子供とふれあう時間の確保に取り組んだ。「情報化推進協議会」を中心にPDCAサイクルを循環させることにより、本計画を推進した。

1 教育の情報化に向けた研究の推進

- (1) 情報活用能力育成研究会議（長期研究員と研究員による研究）

＜研究主題＞ 1人1台端末環境における情報モラルの育成

—各教科等で端末を活用する場面を生かした授業を通して—

○本研究では、各教科等での学習活動の中で情報モラルを育成するために2つの手立てを実施した。1つ目は6つの場面（①検索する、②撮影する、③写真・動画を活用する、④共同編集する、⑤まとめる、⑥発信・受信する）を設定すること、2つ目は、児童生徒に身に着けさせたい情報モラルを明確化するために「日常的なモラルリスト」「情報モラルチェックリスト」を作成し、単元計画に位置付けることである。検証授業では前述の2つのリストを用いて振り返りを行った結果から児童生徒の意識の変容を分析し、情報モラルの育成に向けた具体的な方法について検討した。その結果、各教科等の学習活動における1人1台端末の活用場面を明確にし、身につけさせたい情報モラルを意識することで情報モラルを育成することが可能であることが確認された。センター研究報告会では、抽出校の取組から「6つの場面設定」と「身に付けさせたい情報モラル」を明確にし、各教科等で情報モラルを育成していくための実践的な内容とその効果を中心に報告をした。

(2) 教育情報化推進モデル校との研究 【旭町小学校・川崎高等学校附属中学校】

○校務支援システム内の新機能である「いいとこみつけ」「ダッシュボード」の先行利用し、生徒の日常の行動観察記録を生かした個々に応じた生徒指導に役立てられるか検証した。検証の結果から利用における好事例や注意点をまとめ、新機能の展開をするにあたり全市立学校に周知した。

(3) 情報教育に関する冊子の作成（「5分でわかる情報教育 Q&A【第16版】」・指導主事研究）

○センター研究情報モラル研究会の研究報告をまとめ、川崎市のこれから的情報モラル教育として情報活用能力育成や情報モラル教育について特集を組み、内容をさらに充実させた。また、かわさき GIGA スクール構想における1人1台端末の活用の内容にも触れ、その促進にも役立つ内容とした。

(4) 「かわさき GIGA スクール構想」に関する冊子等の作成をはじめとした教職員等への周知

○他部署と連携しながら、「かわさき GIGA スクール構想教職員向けハンドブック3」を作成した。また、かわさき GIGA スクール構想について、教職員が情報共有できるサイトやWebページを作成し、教職員のみならず、広く保護者や市民にも周知を図った。

2 授業力向上に向けたICT活用指導力を高めるための研修の充実

○指導力の向上や確かな学力の育成、校務の標準化・効率化を図るために、効果的なICT機器の活用研修を推進した。

(1) 校務支援システム研修

○校務支援システムの実機を使った研修を実施し、学校での円滑な活用を促した。

★実施回 全8回 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点より、回数を分散して開催

- ・新任教頭研修・新任教務主任研修（2回）
- ・調査書に関わる研修（3回）
- ・初任者研修（3回）

(2) 希望研修

○文部科学省の「教員のICT活用指導力」の評価基準に対応した研修を行った。研修講座番号、研修講座名、実施形態、参加延べ人数は次のとおりである。

101 GIGA スクール構想研修 集合・双方向オンライン 598名

102 情報セキュリティ及び情報モラル教育 5名

103 小学校情報教育研究会との共催研究 集合 101名

基礎・基本的な端末操作の多い研修は集合で行う等、研修の内容に応じて実施形態を工夫した。研修後の受講者のアンケートでは、授業づくりに役に立つ研修であったとの評価がとても多かった。

○情報セキュリティ・情報モラル教育について授業等を通じて、どのように教えていくかなど教職員の授業力等のスキルアップを図るために実施

★実施1回 ※「情報セキュリティ及び情報モラル教育」（横浜国立大学教職大学院との連携講座）をオンライン研修として実施

(3) リクエスト研修

○学校や研究（部）会からの要請に応じ、GIGA 端末活用研修、ICT 授業活用（オンライン指導含む）、情報モラル教育、ウェブページ作成・更新等、学校や教員の要請に応じて行う研修を企画実施し、教職員のスキルアップを図った。

★訪問研修11回（情報5回+ GIGA 6回）

(4) 情報モラル教育に係わる研修の実施

★各学校において情報モラル教育職員研修を年1回以上実施するよう依頼。

○研修講師等については、センターから紹介するとともに、リクエスト（学校訪問や授業支援）研修

を通して教職員等への情報モラル教育研修の充実に取り組んだ。リクエスト研修の際には、教師がそれぞれ自分たちで情報モラル教育を実践していけるように授業計画の立案を支援したり、授業後の振り返りとして指導・助言を行ったりして情報モラル教育を促進した。

(5) 「かわさき GIGA スクール構想」実現に向けた研修

- 「かわさき GIGA スクール構想」実現に向け、構想内容や取組例等の周知を目的とした研修や機器を用いた操作研修等を実施した。

★教職員向け…実施 23 回 約 1,163 名（悉皆研修 3 回 希望研修 20 回）

3 市立学校 ICT 機器の計画的整備

- 新学習指導要領実施に向けた教育環境の充実や教職員の業務の効率化をめざし、川崎市における中・長期的、総合的な「川崎市立学校における教育の情報化推進計画」を基にした整備を進めた今年度は、令和 2 年度に整備した国の GIGA スクール構想の実現に向けた ICT 環境及び新型コロナウイルス感染症予防対策対応に係る環境(オンライン指導等)の本格運用を通して、必要に応じた追加整備を進めた。

★ 主な整備等 ※新しい契約は[新規]、継続した単年度契約は[継続]

- (1) [新規] 非常勤講師用等 GIGA 端末整備 (1,500 台) ※地方創生臨時交付金活用
- (2) [新規] 普通教室における大型提示装置整備 ※学事課契約 ※地方創生臨時交付金活用
- (3) [継続] GIGA スクール端末活用支援のため「GIGA スクールサポーター」の配置
- (4) [継続] 緊急時対応用モバイル Wi-Fi ルータ回線確保
- (5) [新規] 校務用コンピュータ機器等整備(小・中・特支)
- (6) [新規] 川崎市立はるひ野小・中学校教育用 I C T 機器整備

4 川崎市教育情報ネットワークシステムの活用促進

- 各システムの活用促進にむけて次の業務を推進した。

- (1) 教育情報・学習指導案データベースの充実・活用促進

- (2) 即時性の高いウェブページ更新システムの運用

★より効率的・効果的にウェブサイトを運用できるコンテンツマネジメントシステム (CMS) による総合教育センター・学校・研究 (部) 会のウェブサイトを保守・管理するとともに、公開されたページの巡回確認を行い、ページの新規作成や更新を支援した。

- (3) 川崎市図書館総合システムの有効活用

○年 2 回の図書担当者連絡会でのシステム研修及び、総括学校司書・学校司書への研修を計画的に実施した。

○令和 5 年度更新予定の新図書館システムに向けて、代表者の会議及びヒアリング等を行いネットワーク設定や端末整備に関する計画を作成した。

5 校務支援システム・学務システム・SAINS-WEB の活用促進、ネットワーク及び端末の最適化

- 教職員の働き方改革の視点から、システム等の活用促進に向けて次の業務を推進した。

- (1) 校務支援システム及び高等学校学務システムの活用促進

○教員の校務の効率化と重要情報保護の観点から校務支援システムや学務システムの円滑な運用を図った。校務支援システム (C4th) については、児童生徒一人一人の学習面・生活面を一覧で俯瞰して可視化できる機能 (ダッシュボード) を加え、情報化推進モデル校での検証結果をもとに全市での取り組みに活かした。また、操作等と支援するために研修を行ったり、ヘルプデスクと連携をしたりし、活用の促進を図った。

○学務システムについては、令和 5 年度リース更新に向け各学校に機能要件の聞き取りを行った。

- (2) 情報共有・発信ツールとしての SAINS-WEB の活用促進を図る。

★他室、他課からの SAINS-WEB 掲載依頼 221 件（昨年度 215 件）

○SAINS-WEB の活用促進を図り、教職員への周知方法との一つとして SAINS-WEB が活用されている。掲載にあたり、庁内での連携強化を図るために、市イントラネットシステムを活用した。

(3) 働き方改革の視点から、複数のネットワークや端末の最適化に向けた技術的な検討を進める。

6 教職員の情報モラルの徹底と市立学校の情報セキュリティの向上

○ 情報流失防止の観点から教職員の情報モラル・情報セキュリティの徹底に取り組んだ。

(1) GIGA スクール構想に対応した学校情報セキュリティポリシーの改訂及び関係規程の整備

○ 「学校情報セキュリティ対策基準」においてクラウド等外部サービス利用、学習者用 1 人 1 台端末におけるセキュリティ等の改定を実施した。

○ GIGA スクール構想に関する次の 3 つの規約を制定した。

・「かわさき GIGA スクール構想端末の管理及び運用に関する規約」

・「かわさき GIGA スクール構想アカウントの管理及び運用に関する規約」

・「かわさき GIGA スクール構想ネットワークの管理及び運用に関する規約」

○ 「川崎市立学校等ドメイン管理要綱」を制定。

(2) 情報流失防止に関する活動（管理台帳の作成等）

○ USB メモリ等の適切な扱いについて、個人情報の管理について徹底することを目的とし各学校に管理台帳作成を依頼するとともに、SAINS 端末で使用する USB メモリ等に関しては資産管理システムへの登録を各学校で実施した。また、学校教育部指導課とともに、市立学校の抽出校に対して USB メモリ等の実態調査を行い、学校現場の実態把握と USB メモリ等の適切な扱いに関する周知を行った。

○ 庶務課と連携した「情報公開・個人情報保護制度研修会（学校対象）」を実施し、具体的な内容に基づいた研修とすることで、教職員の情報モラル意識向上に取り組んだ。

(3) コンピュータウィルス対策に関する活動

○ 学校での可搬媒体（USB メモリ等）扱い、フィッシングメール等の注意喚起を行いコンピュータウィルス対策の周知徹底に努めた。

(4) 教育のオンライン利用に伴う情報セキュリティに関するガイドラインの作成

○ 行政情報課や ICT 推進課に相談の上、ガイドラインやチェックリストを作成した。オンライン指導を行う際の手順や資料とともに、各学校に示した。

7 市立学校インターネット問題に対する取組の推進

(1) 「川崎市立学校インターネット問題相談窓口」 平日 8:30～20:15 まで電話相談受付

★インターネット問題 年間相談総件数 22 件

（内容別件数）

・個人情報流布 6 件 ・課金・金銭 1 件 ・人間関係トラブル 1 件
・誹謗中傷 1 件 ・その他 13 件

○ インターネット監視

（ネットトラブル発見時は、学校への連絡、プロバイダへの削除依頼をするなどして対応）

(2) ネットトラブルの未然防止、啓発等のためリーフレットの配付

○ 「川崎市版 保護者向けインターネットガイド 2022 年度版」（A3 判裏表）（全小 1 ～ 高 3 保護者・教職員に配付）として作成した。

(3) 「川崎市立学校インターネット問題連絡協議会」の開催（開催 2 回 ※ 1 回は紙面開催）

○ 川崎市立学校インターネット問題連絡協議会にて、学校、PTA、県警等と情報交換をし、インターネットトラブルに関する最新情報を共有し、それぞれの立場から子どもたちへの啓発を行う

ための協議を行った。情報・視聴覚センターでは、最新の情報をもとにして、教職員研修を実施したり、保護者向けリーフレットに最新の情報を盛り込んだりして協議会の内容を生かした取り組みを行った。

II 視聴覚センター事業の推進

- 市内各区の視聴覚ライブラリーと連携した視聴覚センター事業を推進した。
視聴覚センター機能として、市民団体や学校の教育及び学習活動に役立てるための視聴覚教材の貸出事業を一層推進し、40回を迎えた「わが町かわさき映像創作展」の充実・発展をめざした。
 - (1) 視聴覚ライブラリーの運営及び視聴覚教材機材の整備、貸出
 - 教育文化会館や各市民館の視聴覚ライブラリーと、総合教育センター内の視聴覚センターを週2回連絡便で結び、教材等の配達を行った。また、視聴覚機材は、各ライブラリーで管理し、市民団体等へ貸出を行った。

※令和4年度視聴覚教材の貸出状況（センター→ライブラリー）

教 材	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
16mm フィルム 本数	0	5	13	0	10	15	19	30	17	8	15	6	138
ビデオ・DVD 本数	8	2	9	14	9	4	1	4	2	0	9	0	62
その他 本数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計 本数	8	7	22	14	19	19	20	34	19	8	24	6	200

(2) 平和・人権教育等に関する視聴覚教材の選定・購入

- 平和教育映像教材等連絡調整会議を11月25日（金）に開催を経て、平和教育・人権教育・環境教育等に関する視聴覚教材を選定し、7作品を購入した。

(3) 第40回わが町かわさき映像創作展の開催

- わが町かわさき映像創作展は40回目を迎えた。事前に案内等の広報活動を行い事業の円滑な推進を図った。

- ・応募期間 令和4年10月11日（火）～令和5年1月6日（金）
- ・応募総数 20点（一般応募作品10点・小中学校各研究会推薦作品計10点）
- ・審査日 令和5年1月27日（金）
- ・審査員 6名
- ・表彰
 - ・グランプリ 1点（賞状・トロフィー）
 - ・銀賞 2点（賞状・楯）
 - ・奨励賞 4点（賞状・メダル）
 - ・金賞 1点（賞状・楯）
 - ・優秀賞 4点（賞状・楯）
 - ・原勤賞 1点（賞状・メダル）
- ・表彰式・作品上映会 令和5年2月25日（土）
- ・入賞作品
グランプリ

「影向寺の秘密～私たちの住む町に潜む大きな歴史～」

野川中学校 映像制作部

金賞

「宮中秋のパン祭り」

宮前平中学校 放送部

銀賞

「おすすめスポット紹介」

下河原小学校 3年生

「ケンコウジャー」

川崎高等学校附属中学校 保健委員会

優秀賞

「かわスキ 「首都圏最大級の沖縄イベント

はいさいFESTA2022を調査！」」

専修大学文学部ジャーナリズム学科 井上 明音

「6年生ありがとう」

下河原小学校 5年生

「クイズ下河原」

下河原小学校 3年生

「保健室通信 10・11月号」

麻生小学校 河原 篤子

奨励賞

「かわスキ 「映像のまち かわさき 特集」」

専修大学文学部ジャーナリズム学科 長田 紘弥

「交通安全 うさぎとかめ」	高津高等学校視聴覚委員会
「宮内中文化祭作品 春日神社について」	宮内中学校 マルチメディア部
「こんなことするよ」	下河原小学校 2年生
原勤賞	
「おすすめスポット紹介」	下河原小学校 3年生
(今年度開発した映像教材)	
・かわさきマイスター	

【情報・視聴覚センターの事業を円滑に推進するための関係会議の開催・運営】

- 業務の円滑な運営のために次にあげる各種会議等を開催し連絡・調整を行った。
 - (1) 情報化推進協議会（校長会・学校）
 - (2) 情報教育学校担当者会（全学校）
 - (3) 学校ウェブサイト担当者会（全学校）
 - (4) 情報収集活用委員会（研究(部)会）
 - (5) 高等学校学務システム担当者会
 - (6) 平和教育映像教材等連絡調整会議
 - (7) わが町かわさき映像創作展連絡調整会議
 - (8) 川崎市立学校インターネット問題連絡協議会

5 特別支援教育センター事業

「かわさき教育プラン」には、共生社会の形成をめざし、一人一人の教育的ニーズに適切に対応する支援教育の推進が記載されている。特別支援教育センターは、「第2期川崎市特別支援教育推進計画」に基づき、各事業を通して川崎市の特別支援教育の振興を図っている。令和4年度の事業概要は次のとおりである。

1 「第2期川崎市特別支援教育推進計画」の計画的実施

- (1) インクルーシブ教育システムの構築や多様な学びの場の整備（支援教育課と連携）
- (2) 小中高、特別支援学校における支援教育コーディネーターの取組を支援
- (3) すべての教職員に特別支援教育に関する基礎的な知識や理念、関係法令等の理解。また、多様な学びの場における教職員の専門性の向上

2 特別な教育的ニーズのある子どもの相談や支援の充実

- (1) 教育相談の実施

①来所相談の概要

平成30年度以前までは、継続相談のうち終結件数が少なく、次年度以降に新規相談の対応が追い付かないという課題があった。その後、継続相談については、受理会議等で十分審議しつつ、真に必要な場合のみ受理するなど、業務改善に努めてきた（表1）。また、相談担当者の面接回数については、入級相談の件数増加や就学相談の行動観察で、一部複数対応を行っていることなどから、増加傾向となっている。

表1 来所相談件数と終結件数

	令和元年度	2年度	3年度	4年度
継続件数(終結)	958(547)	370(307)	245(224)	158(140)
新規件数(終結)	1,216(786)	965(452)	1,350(1,208)	1,504(1,289)
計	2,174(1,333)	1,335(759)	1,595(1,432)	1,662(1,429)

※令和4年度の新規件数には、入級相談325件を含む

表2 相談担当者の総面接回数

	令和元年度	2年度	3年度	4年度
一般的な相談	4,702	3,176	3,171	3,028
就学・入級相談	2,606	2,302	2,469	2,639
総面接回数	7,308	5,478	5,640	5,667

②相談待機日数

相談の申込から初回面接までの待ち日数（年平均）は、就学相談30.7日、入級25.2日、一般相談49.7日 平均35.2日であった。一般相談の待機については、新型コロナウイルス感染症の影響により、相談日時の変更を行ったこと等の影響があったと思われる。

③電話相談 教育相談センターの電話相談の項を参照

- (2) 就学相談の実施

①就学相談件数の推移

相談件数は、年々増加傾向にある。令和元年度から通常の学級への就学意向である場合は、一次相談を小学校に変更したことから、令和元年度は件数が減少した。その後、令和3年度まで増加傾向が続いたが、令和4年度は微減となった（図1）。

令和3年度より就学相談専門員が3名体制となった。調整担当指導主事が幼稚園・保育園等の訪問を実施し、複数場面で児童の様子を観察することにより、多角的に教育的ニーズおよび必要な支援を把握するよう努めた。

相談内容としては、医療的ケアを必要とする児童や重複の障害を併せ有する児童、保護者の意向の多様化など、学びの場の合意形成が困難なケースが増加している。

②就学説明会（初就学）の実施

就学相談にかかる情報については、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、令和2年度から引き続きホームページで動画配信・資料掲載を行った。

③総合教育センター相談室における就学相談

地区担当指導主事と就学相談専門員は、保護者との面談を行い、心理臨床相談員は、子どもの行動観察を行った。初回相談から就学に向けての合意形成まで、必要に応じて学校、関係機関等と連携しながら相談を継続した。令和元年度は、特別支援学校知的障害教育部門を希望する児童の集団行動観察を実施したが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、令和4年度についても個別対応で相談を実施した。認定特別支援学校就学者の判断にかかる相談や合意形成が困難な相談については、相談や行動観察を複数で対応するとともに、指導主事が幼稚園・保育園、療育センター等を訪問し、日常の様子を観察したり、小学校での教育相談に指導主事が同行したりするなど、より丁寧な相談を行った。

④川崎市教育支援会議の運営

就学先決定にかかる専門家の意見聴取の機会を設定し、川崎市教育支援会議（年4回）、教育支援会議専門部会（9月～3月（12月・2月は審議完了のため中止））を開催した。教育支援会議での審議件数は増加傾向にある。特別支援学校小中学部および小中学校特別支援学級への就学・進学の状況は以下のとおりである（図2～6）。

教育的ニーズおよび必要な支援がかかる審議内容の傾向としては、本人・保護者との合意形成に向けてより丁寧な相談が必要なケースや、周産期医療の進歩から複数の障害を併せ有する子どもの支援や発達障害等があり、知的な遅れはないものの行動調整への配慮や支援等が必要なケースについて、専門家の意見聴取をおこなった。

図2 教育支援会議審議件数（初就学・既就学）

図1 就学相談件数

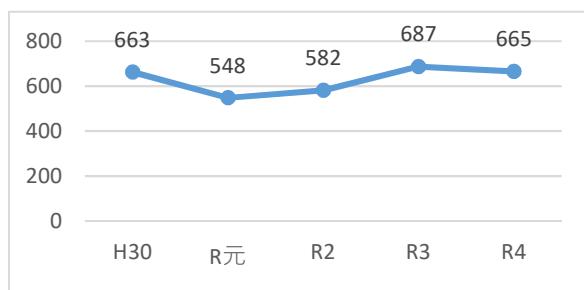


図3 特別支援学校小学部への就学（県立・市立）

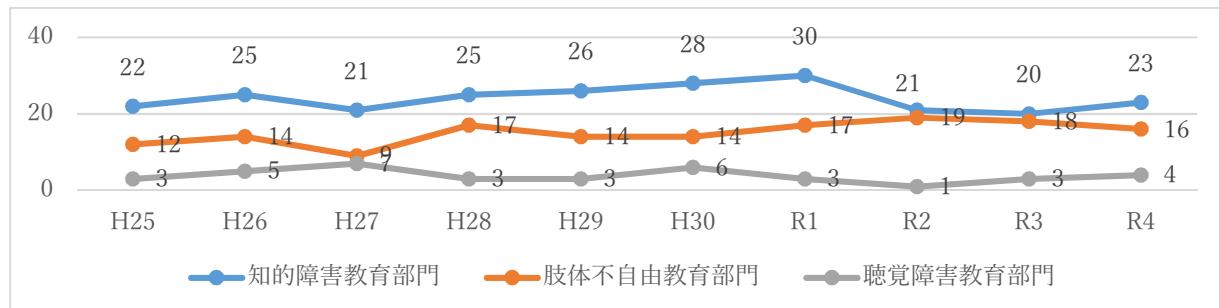


図4 小学校特別支援学級への就学

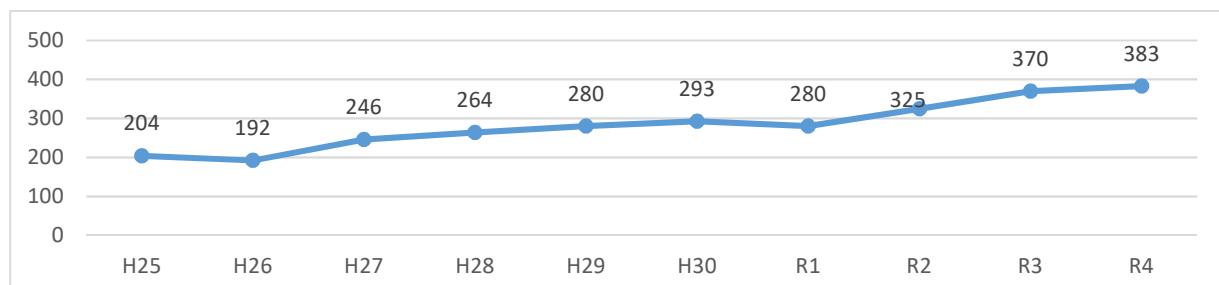


図5 特別支援学校中学部への就学（県立・市立）

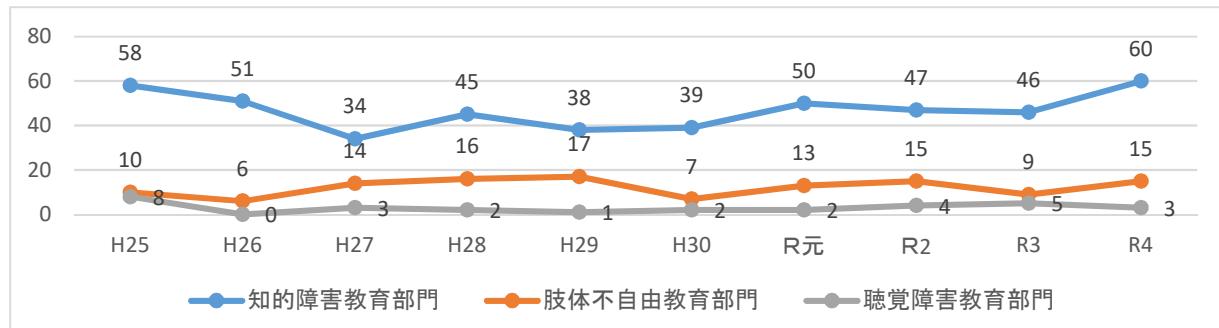


図6 中学校特別支援学級への進学



⑤就学相談フォローアップ

令和3年度、就学児童の様子について指導主事が小学校特別支援学級に28校に訪問し、授業参観をするとともに、必要な支援等について管理職および学級担任等と情報交換をおこなった。

⑥中学校・特別支援学校進路相談連絡会（学校教育部指導課所管）

特別支援学校高等部（知的障害教育部門）の入学者選抜について、県教育委員会、川崎市中学校特別支援学校進路連絡会と連携し、事前の進路指導にかかわる資料配布に努めた。

⑦通級指導教室対象児生徒入級審査会の運営（学校教育部指導課所管）

- ・入級審査会実施回数 小学生対象8回、中学生対象7回
- ・審議件数 400件（小学生（言語163件、情緒179件、難聴7件）、中学生対象51件）

(3) 学校コンサルテーションの充実

来所相談した児童生徒の相談に関わって、保護者の了解が得られたケースについて学校コンサルテーションを行った。子どもへの理解を深め、より適切な支援・指導を行うために、特別支援教育コーディネーター、担任、養護教諭等と情報交換を行い、学校が個別の指導計画を作成・活用するための助言に努めた。年間件数は延べ 26 件だった。

また、令和 3 年度より、来所相談における検査結果を学校支援につなげていく目的で、検査結果報告書を 291 ケース作成した。

3 特別支援教育に関する研修の充実

- ①「支援教育コーディネーター必携」及び「特別支援学級担任のためのハンドブック」を作成・活用し、個別の教育支援計画に基づく支援の充実を推進
- ②必修研修及び希望研修では、研修機会の拡大を目的としてオンライン研修を充実
- ③障害による学習上又は生活上の困難さを改善・克服するための GIGA 端末の活用

(1) 必修研修

- ア 特別支援学級等新担任者研修（オンライン 5/6 回 登録 134 名 延べ 736 名）
- イ 特別支援学級等新担任者 2 年目研修（オンライン 1/2 回 登録 94 名 延べ 187 名）
- ウ 通級指導教室新担任者等研修（オンライン 5/6 回 登録 19 名 延べ 110 名）
- エ 支援教育コーディネーター養成研修（オンライン 3/6 回 登録 30 名 延べ 180 名）
- オ その他（特別支援学校 2 年目研修、臨任研修、サポートー研修）

(2) 希望研修（特別支援教育研修）

- ア I コーディネーター専門、II 通級指導教室専門（オンライン 6/6 回 延べ 558 名）
- イ III 重度の障害のある子への支援、IV 聞こえや見え方に課題のある子への支援
(1/5 回 延べ 16 名)
- ウ 教育課程研究会（小学校オンライン 1/1 回、中学校オンライン 1/1 回）
- エ 校内研修
 - ①校内職員研修に指導主事を派遣するリクエスト研修 29 回
 - ②校内授業研究会等の講師として、指導主事派遣 24 回

5 特別支援教育推進に関する研究の実施

・令和 3 ・ 4 年度川崎市教育委員会研究推進校である田島支援学校が作成した「学習指導段階表」の研究成果を研究報告会で発表した。令和 4 ・ 5 年度研究推進校である東住吉小学校においては、本市における特別支援学級の学級経営や授業づくりにおける課題や取組を踏まえ、特別支援学級における指導の在り方について中間報告会を開催した。

6 教育相談センター事業

教育相談センターでは、来所面接及び電話による教育相談、教職員の教育相談に関する研究・研修、不登校児童生徒への支援として市内6カ所のゆうゆう広場の運営及び不登校家庭訪問相談事業を行った。そのほか、スクールカウンセラー配置事業、学校巡回カウンセラー派遣事業による相談活動を行った。また、不登校対策連絡会議、不登校児童生徒・高校中退者のための不登校相談会・進路情報説明会を開催した。令和4年度の各事業の状況は次のとおりである。

1 教育相談事業の実施状況

(1) 来所面接相談の実施状況

① 来所面接相談件数

表1は令和4年度の来所面接相談（教職員の相談は除く）の状況である。教育相談件数440件のうち307件が令和5年度に継続されることになった。

[表1-1 令和4年度 来所面接相談件数と終結件数]

	相談件数	終結件数	令和5年度への継続件数
継続	340	122	218
新規	100	11	89
合計	440	133	307

[表1-2 表1-1より取り出した不登校・いじめ絡みに関する来所面接相談件数と終結件数（再掲）]

		相談件数	終結件数	令和5年度への継続件数
不登校	継続	250	93	157
	新規	78	8	70
いじめ絡み	継続	18	5	13
	新規	9	1	8

② 来所面接相談総回数

表2は月別、対象別の来所面接相談総回数である。新規に申し込みがあった来所面接相談については2週間程度に担当者から連絡し、早期対応に努めている。また、ゆうゆう広場については、その特徴を理解した上で通級してもらうために、不登校児童生徒や保護者を対象に指導主事が事前相談を、カウンセラーが通級相談（通級時の初回相談）・継続相談を実施している。

[表2 月別、対象別 来所面接相談総回数]

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	
来所面接相談	教育相談室	親	221	257	279	243	230	266	246	268	253	270	260	2996
		子	123	150	169	154	153	185	192	195	191	186	194	2072
	ゆうゆう広場	事前相談	14	16	16	14	10	41	34	18	18	17	20	227
		通級相談	1	14	11	2	3	11	19	20	15	14	12	131
		継続相談	27	27	16	32	22	30	28	23	34	27	44	341
	合 計		386	464	491	445	418	533	519	524	511	514	530	5767

③ 学校コンサルテーション

学校コンサルテーションとは、センターの職員と学校の教職員が、来所している子どもに対してよりよい支援ができるように話し合うことである。

[表3 月別回数]

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
学校コンサルテーション	2	5	1	3	1	3	2	5	6	2	6	11	47

④ 新規来所面接相談の相談内容

[表4 新規来所面接相談の相談内容の内訳]

	小学生	中学生	高校生	その他	合 計	相談件数に占める割合
知能・学業	2	0	0	0	2	2.13%
性格・行動	53	28	8	0	89	94.68%
進路・適性	0	1	0	0	1	1.06%
身体・神経	0	0	0	0	0	0.00%
その他	1	0	1	0	2	2.13%
合計	56	29	9	0	94	
不登校(再掲)	46	27	5	0	78	82.98%
いじめ絡み(再掲)	4	3	2	0	9	9.57%

(2) 電話による教育相談の実施状況

電話相談は気軽に相談できる手段としてだけでなく、電話相談から来所相談へとつなげる役割も果たしている。今年度も保護者からの相談が多くあった。

① 電話相談件数及びその内容 (午前9時～午後6時)

[表5 電話相談 相談件数及びその内容と内訳]

	就学前		小学生		中学生		高校生		その他	合計			合計
	保護者	本人	保護者	本人	保護者	本人	保護者	本人		保護者	本人	他	
知能学業	2	0	19	1	2	1	0	0	1	23	1	3	27
不登校	0	0	31	0	31	0	13	1	3	75	1	12	88
いじめ	0	0	8	1	4	2	3	0	0	15	3	1	19
友人関係	0	0	14	4	3	0	1	0	0	18	4	0	22
性格行動	0	0	16	2	8	6	8	7	5	32	15	7	54
進路適正	17	0	13	0	9	0	6	3	3	45	3	5	53
身体神経	2	0	3	1	1	0	0	1	1	6	2	2	10
教育一般	2	0	68	0	35	1	17	1	15	122	3	21	144
その他	0	0	0	1	1	0	0	1	44	1	2	44	47
合計	23	0	172	10	94	10	48	14	72	337	34	95	466

② 24時間子供SOS電話相談の件数-

いじめ問題等、心配なこと、困っていることで悩む子どもや保護者がいつでも相談できるよう、夜間を含めた24時間相談できる体制で取り組んだ。

[表6 24時間子供SOS電話相談 相談件数]

受付時間	相談者					計
	小学生	中学生	高校生	保護者	その他	
相談 件数	9時～18時	25	21	15	53	171
	18時～9時	4	32	44	38	207
	計	29	53	59	91	146
	いじめ絡み(再掲)	4	1	1	2	0
						8

2 研究・研修の状況

(1) 研究

長期研究員による研究

「川崎市中学生における援助希求的態度の育成に向けて
～「SOSの出し方に関する教育」プログラム試案の取組を通して～」

カウンセラーリサーチによる研究

教師の「言葉選び」を重視した教育相談活動の実践

－生徒アンケートを踏まえた教師意識の向上をめざして－

指導主事による研究

「支援教育コーディネーターに求められる教育相談の視点を整理する

－支援教育コーディネーターの教育相談力を支える研修に向けて－」

(2) 研修

支援教育コーディネーター研修(835研修)全7回(集合7回) 延べ318名参加

希望研修(312・313・314・314研修)全4講座(集合3講座、ハイブリッド1講座) 延べ158名参加

リクエスト研修(600研修)16回実施 延べ496名参加

いじめ・不登校・児童理解・教育相談・自殺自傷行為の理解と予防

その他

① 新規採用教員研修での教育相談研修

② サポーター研修会「子どもの理解と支援～教育相談的な視点から～」

③ 麻生市民館岡上分館 家庭・地域教育学級「子どものSOSサインを見逃さない」

④ 麻生市民館 家庭・地域教育学級

「もうすぐ小学生！入学準備～第5回入学前に知りたい！友達、先生、いじめ、不登校

⑤ 専科教員研修「児童理解」

3 「不登校」家庭訪問相談事業

家に引きこもりがちな不登校児童生徒の保護者の要請を受けて、家庭に出向き相談活動を行っている。
令和4年度は2名の家庭訪問相談員で実施した

[表7-1 令和4年度 家庭訪問相談状況]

	小学生	中学生	その他	合計
家庭訪問回数	78	72	1	151
訪問以外回数	7	8	0	15
合計	85	80	1	166

[表7-2 令和4年度 実施後の状況]

	小学生	中学生	その他	合計
家庭訪問件数	12	26	1	39
学校復帰者数	0	8	0	8
好ましい変化	2	2	0	4

※ 復帰とは、学校へ週1回程度登校した状態をさす。

4 ゆうゆう広場の活動状況

ゆうゆう広場は6つの広場が設置されている。不登校の児童生徒が市内のどこからも通いやすい環境を整えられている。各ゆうゆう広場には、教育相談員が4名ずつ配置され活動にあたった。令和4年度は、17名のメンタルフレンドが、通級している子どもの活動の援助を週1回の割合で行った。

(1) 通級状況

[表8-1 令和4年度 学年別、男女別 通級者数]

	小1	小2	小3	小4	小5	小6	小計
男子	0	1	2	9	8	10	30
女子	0	3	4	8	6	9	30
合計	0	4	6	17	14	19	60

中1	中2	中3	小計	合計
24	20	20	64	94
21	27	30	78	108
45	47	50	142	202

[表8-2 令和4年度 行政区別、男女別 通級者数]

	みゆき			さいわい			なかはら			たかつ			たま			あさお			合計
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
川崎	2	2	4	1	3	4	0	1	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	10
幸	2	5	7	6	11	17	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	25
中原	0	0	0	7	2	9	9	12	20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	30
高津	0	0	0	0	1	1	10	5	15	14	14	28	1	1	2	0	0	0	46
宮前	0	0	0	0	0	0	0	2	1	10	12	22	1	2	3	0	1	1	28
多摩	0	0	0	0	0	0	1	1	2	0	2	2	2	8	10	1	3	4	18
麻生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	25	19	44	45
合計	4	7	11	14	17	31	21	21	42	25	28	53	4	12	16	26	23	49	202

[表8-3 令和4年度 復帰者数]

小学生	中学生	合計
16	43	59

※ 復帰とは、学校へ週1回以上登校した状態をさす。

[表8-4 中学校3年生の進路状況]

公立				私立 (サポート校を含む)			専門学校	就職	フリースクール	家事手伝い	未定	合計
全日制	定時制	通信制	特別支援学校	全日制	定時制	通信制						
10	7	1	0	3	0	22	1	0	0	0	1	45

(2) 体験活動

令和4年度は、全広場合同の行事である親子ふれあい活動、プラネタリウム見学は実施したが、新型コロナウィルス感染症対策のため、サマーキャンプは中止となった。

[表8-5 令和4年度 全広場合同行事 参加者数]

サマーキャンプ（8月 1泊2日）	中止
親子ふれあい活動（10月）	69名
プラネタリウム見学（11月）	71名

5 スクールカウンセラー配置事業

市内52校の市立中学校と5校の市立高等学校に継続配置しているスクールカウンセラーは、生徒指導担当や養護教諭、支援教育コーディネーターをはじめとする教職員との連携を深めながら相談活動を行った。

[表9 令和4年度 スクールカウンセラーによる相談内容別延べ人数]

①不登校	②いじめ	③暴力行為	④虐待	⑤友人関係	⑥貧困	⑦非行・不良行為
9973	230	67	207	1880	15	101
⑧ヤングケアラー	⑨⑩⑪⑫⑬⑭を除く 家族関係	⑪教職員との 関係	⑫心身の健康・ 保健	⑬学習・進路	⑭発達障害等	⑮その他の主訴
181	1837	528	4533	1310	2010	967
合計						23839

- ・スクールカウンセラー連絡会議・研修会開催日

4月4日（月） 7月7日（木） 11月16日（水） 2月14日（火） 計4回

6 学校巡回カウンセラー派遣事業

令和4年度より、学校巡回カウンセラー15名に増員し、市立小学校への月2回程度の定期派遣を開始した。特別支援学校へは引き続き、要請派遣を行った。定期派遣へ切り替えたことで相談件数は増加し、直接の相談以外にも心理の専門性を活かして活動し、児童生徒及び保護者、学校に対する支援の充実につながった。

令和4年度より、事件・事故等に対する緊急支援については、中学校・高等学校を担当するスクールカウンセラーが行っている。

[表10 令和4年度 学校巡回カウンセラーによる年間相談件数]

	小学校	特別支援学校	計
対応件数	1,736	4	1,740
教員	6,275	5	6,280

[表11 令和4年度 学校巡回カウンセラーによる年間相談延べ人数]

	保護者	児童生徒	計
小学校	3,389	1,807	5,196
特別支援学校	4	0	4
計	3,393	1,807	5,200

7 不登校対策連絡会議

昨年度は集合での開催はできなかつたが、令和4年度は、不登校対策にかかわる施設や関係機関の職員30名程度が集まり、年2回の不登校対策連絡会議を開催した。

実際に不登校児童生徒への支援に携わっている実務者同士が、お互いの相談支援の方法や強み等について確認し、顔の見える関係づくりを行つた。

8 不登校児童・生徒、高校中退者等のための不登校相談会・進路情報説明会

令和4年9月17日（土）総合教育センターにおいて、県教育委員会・フリースクール等と連携して「不登校児童・生徒、高校中退者等のための不登校相談会・進路情報説明会」を実施した。

保護者や児童生徒など173名が来場し、184件の個別相談が行われた。

7 広報及び刊行物等

1 川崎市総合教育センター所報

[発 行] 令和4年7月

[発行部数] 1,000部 (A4判)

[主な記事] 第1号『【巻頭言】子どもと共に学び続ける教員』

『カリキュラムセンター 事業・業務』

『情報・視聴覚センター 事業・業務』

『特別支援教育センター 事業・業務』

『教育相談センター 事業・業務』

『令和4年度 教育委員会研究推進校一覧』

2 総合教育センター要覧 令和4年度

[発 行] 令和4年9月

[発行部数] 100部 (A4判)

[主な内容] 設立趣旨、沿革、特徴、組織・機構、事業内容

3 その他の刊行物

No	種 別	発行月	規格	ペー ジ 数	部 数
1	事業報告書	12月	A4	46	100
2	小学校「自己実現を図り、持続可能な社会を創る資質・能力の育成Ⅰ」	3月	電子	—	—
3	中学校「自己実現を図り、持続可能な社会を創る資質・能力の育成Ⅰ」	3月	電子	—	—
4	小・中学校「自主・自立」「共生・協働」を目指した教育課程編成のための資料 VI 総則	3月	電子	—	—
5	みんなで学ぼう みんなで語ろう (川崎市立高校定時制案内)	10月	A4	8	2,600
6	川崎市立高等学校教育実践の記録	3月	電子	—	—
7	夢を育てよう	5月	A4	6	12,000
8	研究紀要 第28号	4月	A4	195	450

No	種 別	発行月	規 格	ペー ジ数	部 数
9	研修案内	4 月	A 4	73	500
10	研修一覧	4 月	B 2	1	300
11	副読本かわさき 2 0 2 3	3 月	A 4	200	13,500
12	初任者研修の手引き	4 月	A 4	53	460
13	はじめて教員になった人のために	4 月	A 4	112	800
14	初任者研修 研修ノート	4 月	A 4	59	800
15	初任者研修 宿泊研修のしおり	7 月	A 4	36	550
16	中堅教諭等資質向上研修 研修の手引き	4 月	A 4	31	650
17	中堅教諭等資質向上研修 研修ノート	4 月	A 4	22	650
18	川崎市立小学校学習状況調査報告書	9 月	A 4	144	430
19	川崎市立中学校学習状況調査報告書	2 月	A 4	338	200
20	保健体育学習指導の手引き	3 月	A 4	46	320
21	スクールカウンセラー配置事業報告書	5 月	A 4	104	135
22	川崎市適応指導教室 ゆうゆう広場の活動報告	11月	A 4	30	250
23	特別支援学校担任のためのハンドブック	3 月	A 4	49	362
24	5 分でわかる情報教育Q & A	3 月	A 4	104	1,700
25	小学校における学習評価の考え方及び指導要録記入の手引き	9 月	A 4	40	3,000

4 資料の収集・整備

収集	研究・研修用教育図書
	市内各学校の要覧、案内及び校内研究報告書
	市内小・中・高校の各研究会発行の紀要等
整備	市内小・中・高校の教科書

令和4年度 事業報告書

令和5年12月

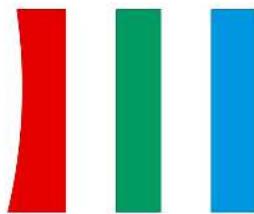
編集・発行 川崎市総合教育センター

所 在 地 川崎市高津区溝口6丁目9番3号

TEL 044-844-3600

FAX 044-844-3604

E-Mail KE130201@to.keins.city.kawasaki.jp



Colors, Future!

いろいろって、未来。

川崎市